点検・整備チェックリスト

（販売店にチェック・記入を依頼してください）

✓：異状無し　A：調整、注油　△：修理　×：交換　C：掃除その他　ー：装着されていない部品

点検の箇所	点検項目	販売時	1回目 2か月	2回目 6か月	3回目 1年	4回目 1年半	5回目 2年	6回目 2年半	7回目 3年
フレーム・フロントフォーク	変形、折損、ヒビ割れは無いか								
	ヘッド、ハンガー小物にガタや摩耗は無いか								
ハンドル	固定は確実か、高さ、ハンドルステムの挿入量は適正か								
	変形、折損、軽く回転するか								
どろよけ	変形、取り付けは適正か								
キャリヤ	変形、ガタ、折損は無いか								
車輪	固定は確実か、フレーム、フロントフォークに接触していないか								
タイヤ	切傷、摩耗は無いか、空気圧は適正か								
リム	変形、振れは無いか								
スポーク	緩み、折れ曲がり、切損は無いか								
ハブ	ハブナットの緩み、玉押しのガタは無いか								
ギヤクランク	ギヤ板の振れ、ヒビ入り(軽合金)、曲がり、ガタは無いか、締め付けは十分か								
ペダル	固定は確実か、取り付け部（クランク側）にバリは無いか								
	軸の回転は正常か、変形、カシメ、ねじの緩み、ガタ、折損は無いか								
ブレーキ	利き具合は適正か								
	レバーの引き代に余裕はあるか、ワイヤ類にさびやほつれは無いか								
	ブレーキゴム類（ブレーキブロック、パッド、ライニング）の減りは無いか								
変速機	作動は確実か								
ベルト	ヒビ入り、歯欠け、折損は無いか、張りは適正か								
チェーン	油切れ、たるみは無いか、ギヤとの噛み合わせは適正か								
サドル	固定は確実か、高さ、シートポストの挿入量は適正か								
	取り付け位置、ガタ、損傷は無いか								
ライト	点灯、照射は正常か、破損は無いか、コード切れは無いか								
リフレクター	汚れ、ガタ、破損は無いか、点灯（テールランプ付）は正常か								
スタンド	作動は正常か、ガタ、変形、折損は無いか								
ベル・ブザー	作動は正常か、変形、緩みは無いか、よく鳴るか								
錠	作動は正常か、変形、緩みは無いか								
その他	各部のねじの緩み、損傷は無いか								
注油箇所	チェーン、ワイヤ、変速機、ブレーキレバー、スタンドの支点、バッテリーロックキー穴、錠前キー穴								

実施店	実施者氏名	実施日	年 ／	年 ／	年 ／	年 ／	年 ／	年 ／	年 ／	年 ／
保証書に印字されている品番および車体番号を転記してください		確認印	印	印	印	印	印	印	印	印
品番	車体番号									

パナソニック サイクルテック株式会社

〒582-8501　大阪府柏原市片山町13番13号

NYT1468 G0114-0

Panasonic®

取扱説明書

電動アシスト自転車

品番 BE-ENW076

保証書別添付

このたびは、パナソニック製品をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。

- ●取扱説明書をよくお読みの上、正しく安全にお使いください。
- ●ご使用まえに「**安全上のご注意**」（4～13ページ）**を必ずお読みください。**
- ●保証書は「お買い上げ日・販売店名」などの記入を確かめ、取扱説明書とともに大切に保管してください。
- ●製品をほかの人に譲渡される場合は、この取扱説明書を一緒にお渡しください。
- ●お子様がお使いになる場合は、保護者の方がこの取扱説明書を必ずお読みいただき、正しい乗りかたをご指導ください。

お願い

- ●この自転車は、散歩、買い物などの日常生活用として設計されています。新聞配達など、業務用としてご使用にならないでください。
- ●安全のため、ヘルメットの着用をお勧めします。
- ●万一の事故に備え、対人・対物賠償保険に加入されることをお勧めします。
- ●必ず、販売店で防犯登録の申請手続きを行ってください。（法令で義務付けられています。）

お知らせ

- ●この取扱説明書に記載のイラストは、イメージ図を使用しています。形状やデザインが、お買い上げいただいた自転車と異なる場合があります。

自転車のルールを守って、安全走行
●止まって確認、らくらく発進
●ライトをつけて、らくらく走行

◆お買い求めいただいた電動アシスト自転車の特長

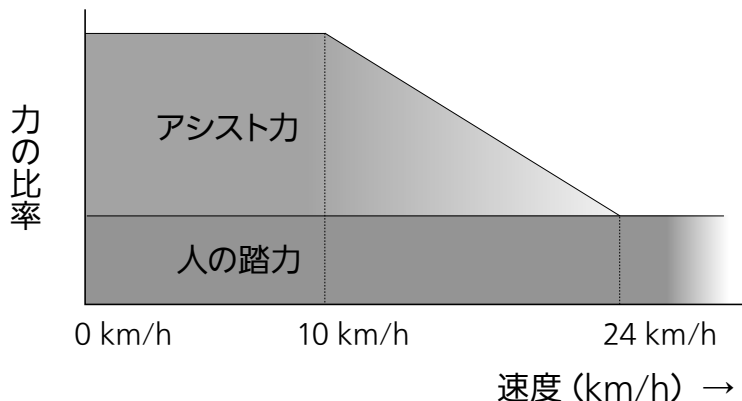
①アシスト力の働きで楽に乗れます。

ペダルを一定以上の力で踏むとアシスト力が働き、自転車よりも軽い踏力で走行できます。

☆下のグラフは「人の踏力」と「電動のアシスト力」との関係をイメージで表しています。

・アシスト力とアシストが働く速度範囲は、アシストモード、変速位置により変化します。

・乗る人の踏力、道路の状況、乗員と積載荷物を含む総質量の条件により楽になる度合に差が生じます。

・アシスト率（人の踏力と電動のアシスト力との比率）は約 10 km/h から徐々に下がっていきます。

②ハブ内蔵スピードセンサー搭載で、よりなめらかな加速とアシストの持続を実現します。

トルクを感知していた従来のセンサーに加え、走行スピードを感知するハブ内蔵スピードセンサーを新たに搭載しました。2 つのセンサーが同時に働き、アシスト力を調整することで、よりなめらかな加速とアシストの持続を実現します。

③エコナビ機能で、さらに走行距離が伸びます。

ECONAVI

走行状態をセンサーで感知し、自動でムダを見つけて省エネ走行する「エコナビ」機能です。走行条件により、最適なアシスト力を自動的にコントロールし、省エネ走行を実現しています。消費電力が少ない走行時、エコナビランプを点灯してエコ運転走行をお知らせします。

④バッテリーが切れても、普通の自転車として走行できます。

アシスト量の調整に必要な「こぐ力」を検知する際、抵抗が加わらないセンサーで、バッテリーが切れても、抵抗感無く、一般的な自転車と同じような快適さです。

⑤アシストモード切り替え機能が付いています。

エコナビ LED スイッチのボタン操作で、長距離走行ができるロングモード、アシスト力を自動でコントロールするオートマチックモード、楽に走行できるパワーモードが選べます。

⑥リチウムイオンバッテリーを使用しています。

メモリー効果※の心配が無く、軽量で安全性に優れたリチウムイオンバッテリーを搭載しています。

※メモリー効果とは、継ぎ足し充電を何度も繰り返すことで見かけ上のバッテリーの性能が低下する状態のことです。

お知らせ

●次のようなときはアシスト力は働きません。

・速度が 24 km/h 以上のとき。

・ペダルを踏む力が弱いとき、または、ペダルの回転を止めているとき。

・バッテリーの残量がなくなったとき。

・オートオフシステムが働いたとき。（電源が入った状態で 10 分以上ペダルを踏まなかったとき、自動的に電源が切れます。再度走行するときは、電源を入れてください。）

もくじ

安全上のご注意(1)

必ずお守りください

人への危害、財産の損害を防止するため、必ずお守りいただくことを説明しています。

■誤った使い方をしたときに生じる危害や損害の程度を区分して、説明しています。

区分	内容
⚠ 危険	「死亡や重傷を負うおそれが大きい内容」です。
⚠ 警告	「死亡や重傷を負うおそれがある内容」です。
⚠ 注意	「軽傷を負うことや、財産の損害が発生するおそれがある内容」です。

■お守りいただく内容を次の図記号で説明しています。(次は図記号の例です)

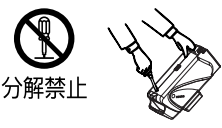
図記号	内容
🚫 🚫	してはいけない内容です。
❗	実行しなければならない内容です。
⚠	気をつけていただく内容です。

バッテリー

※バッテリー本体にも表示しています。

⚠ 危険

■クギで刺したり、衝撃を与えたり、分解・改造をしない

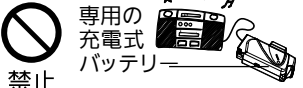
分解禁止

■火への投入、加熱をしない

■火のそばなど高温の場所で充電・使用・放置しない

禁止

■当社電動アシスト自転車専用の充電式バッテリーです

この機器以外に使用しない

禁止

■専用充電器を使用してください

発熱、発火、破裂の原因となります。

■(+)と(−)を金属などで接触させない

禁止

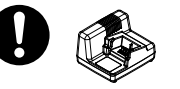
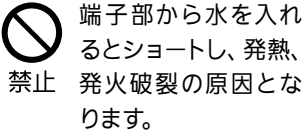
発熱、発火、破裂の原因となります。

●ネックレス、ヘアピンなどと一緒に持ち運んだり保管しないでください。

⚠ 警告

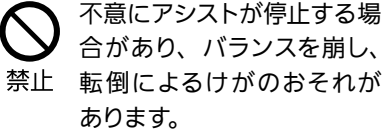
■水を入れたり、水中に投下したりしない

禁止

端子部から水を入れるとショートし、発熱、発火破裂の原因となります。

●バッテリー内部に明らかに水が浸入した場合は、使用を停止し、販売店で点検を受けてください。

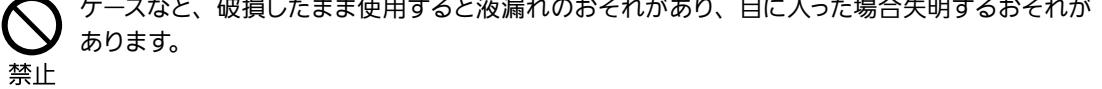
■大雨などで自転車本体(バッテリー部)が水につかった場合、使用しない

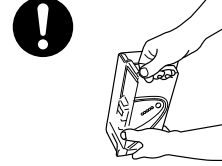
禁止

不意にアシストが停止する場合があり、バランスを崩し、転倒によるけがのおそれがあります。

●本自転車は生活防水性能を備えていますが、大雨などによりバッテリー内部に水が入った場合は使用を停止し、販売店で点検を受けてください。

■傷ついたまま使用しない

禁止

ケースなど、破損したまま使用すると液漏れのおそれがあり、目に入った場合失明するおそれがあります。

⚠ 注意

■両手で扱う

落下して破損し、けがをするおそれがあります。

■幼児の手の届く所に置かない

禁止

落下して、けがをするおそれがあります。

安全上のご注意(2)

必ずお守りください

⚠警告

本体

■サドルやハンドルは「はめ合わせ限界標識」が見える状態で乗らない

禁止 サドルやハンドルの折れにより、転倒や衝突によるけがのおそれがあります。

■改造や分解、また指定以外の注油はしない

禁止 部品の破損や、ブレーキが利かなくなって転倒や衝突によるけがのおそれがあります。

■ハブステップなどの突出物を装着しない

禁止 歩行者などに危害をおよぼすおそれがあります。

■調整後の締め付けを確認せずに乗らない（車輪の脱着やサドル・バッテリーライトなど）

禁止 車輪などが外れて、転倒によるけがのおそれがあります。

⚠警告

充電器

■当社電動アシスト自転車バッテリーの充電以外の使用、また分解、改造は絶対しない

分解禁止 バッテリーの液漏れ、発熱による火災のおそれがあります。

■充電端子を金属でショートさせない

禁止 発熱、発火、感電のおそれがあります。
●充電しないときは、端子カバーをかぶせておいてください。

■電源コードや電源プラグ・ケースを破損するようなことはしない（傷つける、加工する、熱器具に近づける、無理に曲げる、ねじる、引っ張る、重いものを載せる、束ねる　など）

禁止 傷んだまま使用すると、感電・故障・火災の原因になります。
●電源コードなど単体での修理・交換はできません。充電器の電源コードなどが傷んだ場合、販売店にご相談の上、充電器本体をご注文ください。

■充電端子部にボタン・コイン電池を接触させない

禁止 ボタン・コイン電池が破裂し、発火のおそれがあります。
●充電しないときは、端子カバーをかぶせておいてください。

■ぬれた手で電源プラグの抜き差しはしない

ぬれ手禁止 感電のおそれがあります。

■コンセントや配線器具の定格を超える使いかたや、交流100 V以外での使用はしない

禁止 たこ足配線などで、定格を超えると、発熱による火災の原因になります。

■幼児やペットが触れる所に放置しない

禁止 幼児やペットがコードを傷め、感電・故障・火災の原因になります。

■電源プラグは根元まで確実に差し込む

差し込みが不完全ですと、感電や発熱による火災の原因になります。

⚠警告

充電器

■以下のようなことはしない
●衝撃を与えること　●落下　●水濡れ
●高湿度な場所での使用

禁止 発熱、発火、感電のおそれがあります。

■充電端子や電源プラグのほこりなどは定期的に取る

ほこりがたまると、湿気などで絶縁不良となり、火災の原因になります。
●電源プラグを抜き、乾いた布で拭いてください。

■電源コードを充電器本体に巻きつけて保管しない

禁止 電源コードやプラグが断線し、傷んだまま使用すると、感電・故障・火災の原因になります。

■充電中はカバーをしたり、上に物を置いたりしない

禁止 内部が発熱し、火災のおそれがあります。

⚠注意

■充電中は長時間、皮膚の同じ場所で触れない

禁止 充電中は、40 ℃～ 60 ℃になる場合があり、低温やけどのおそれがあります。

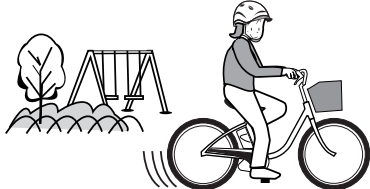
■電動アシスト自転車を安全に乗るために

⚠ 警告

■けんけん乗り（けり乗り）しない

禁止

転倒や接触事故によるけがのおそれがあります。
●必ずサドルにまたがって、発進してください。
※けんけん乗り（けり乗り）とは、片足でペダルをこぎながら助走し、反動を付けてサドルにまたがる乗りかたです。

■電動アシスト自転車に慣れるまでは、車が通らない平坦な場所（公園や広場など）で十分練習する

転倒や衝突事故によるけがのおそれがあります。
●電動アシスト自転車に慣れるまでは「ロング」で走行してください。

■停車中は、前後ブレーキをかけた状態にし、ペダルに足を乗せない

禁止

不用意なアシスト力が働き転倒や接触事故によるけがのおそれがあります。

■発進時は、ペダルを強く踏み込まない

禁止

思わぬ急発進により転倒や衝突事故によるけがのおそれがあります。
●強く踏み込まなくても、楽に発進することができます。

■バッテリーが確実に装着されているか確認する

走行中にバッテリーが脱落し、転倒によるけがのおそれがあります。

■バッテリー残量が少ない状態（残量表示が点滅状態）のときには、上り坂で乗車しない

禁止

アシストが切れたときに、バランスを崩し、転倒によるけがのおそれがあります。

⚠ 警告

■走行中、手元スイッチの電源を入り切りしない
■走行中、アシストモードの切り替えをしない

禁止
上り坂や発進時、誤操作などでアシストが切れたときに、バランスを崩し、転倒によるけがのおそれがあります。
●必ず停止して、電源、アシストモードの操作をしてください。

■夜間走行まえには必ずバッテリー残量を確認する

走行中アシストが切れた場合、ライトはしばらく点灯したあと消灯します。消灯後の乗車は衝突や転倒によるけがのおそれがあります。
●夜間走行中、ライトが点滅状態や消灯状態になった場合、押して歩いてください。点滅状態や無灯火での夜間乗車は、法令違反になります。

安全上のご注意(4)

必ずお守りください

けがをせずに、ほかの人にも迷惑をかけないために、乗りかたや交通ルールを守りましょう。
安全のため、ヘルメットの着用をお勧めします。

■乗るまえに

まず体に合わせてください

●図のように販売店で調整してもらってください。
●操作して確認してください。
①円滑なペダリングができる。
②ブレーキや変速機が確実に操作できる。
③ハンドル操作が容易にできる。

必ず点検をしてください

●必ず、取扱説明書をよく読んで点検してください。
●わからないときは販売店に相談してください。
●未組み立ておよび未調整の自転車は使用しないでください。

安全な服装で乗ってください

（車輪に巻き込まれやすい服装はしない）
●ズボンの汚れやチェーンへの巻き込み、ギヤへの引っ掛かりなどを防止するために、チェーンやギヤがむき出しの自転車に乗るときは、ズボンの裾をズボンバンドで止めてください。
●児童（13 歳未満の者）・幼児の保護者は、お子様が乗車するとき、必ずヘルメットをかぶらせてください。

乗る練習は必ず行ってください

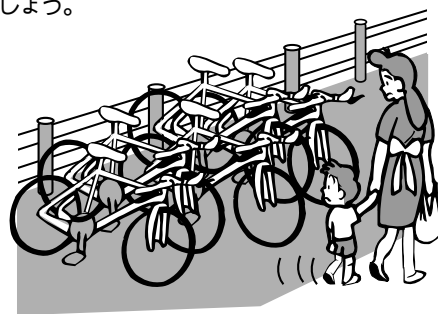
●練習を空地や公園など安全な場所で、行ってください。
●よく練習してから一般道路でお乗りください。

■乗ったあとは

決められた場所に駐輪してください

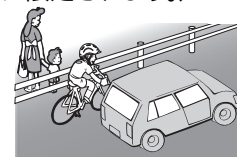
●駐輪するときは、ほかの人に迷惑にならないよう、決められた場所に止めましょう。
●盗難防止のため、必ずかぎをかけましょう。

自転車放置禁止

●自転車の放置は、ほかの人に迷惑をかけるばかりでなく、環境悪化の原因となります。絶対に止めましょう。

■自転車の交通安全ルールを守りましょう

※違反すると、道路交通法の罰則を受けることがあります。

自転車は、車道通行が原則です

●歩道と車道の区別のある所は自転車は車道の左端に寄って通行しましょう。（路側帯がある場合でも、自転車の通行は道路の左側部分に設けられた路側帯に限定されます。）

次の様な場合は、歩道通行ができます

（そのときにも歩道は歩行者優先、車道寄りを徐行）
●自転車歩道通行可の標識などで指定されている場合。
●運転者が児童、幼児、70 歳以上の場合。
●車道や交通の状況から見てやむを得ない場合。

30 kg を超える荷物を積載しない

●ただし、自転車や取扱説明書などへ積載条件の記載がある場合はそちらを守ってください。

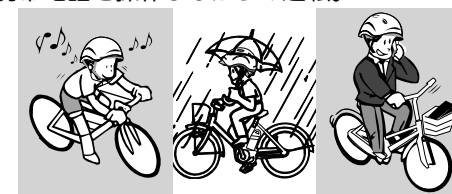
交差点では一時停止と安全確認を

●一時停止の標識を守り、広い道に出るときは、徐行と安全確認を。
●信号機がある場合は、信号を必ず守りましょう。

夜間やトンネル内、視界の悪いときは、ライトを点灯して通行しましょう

●夜の点滅状態や無灯火での運転は交通違反です。
●暗い所ではライトをつけて通行しましょう。

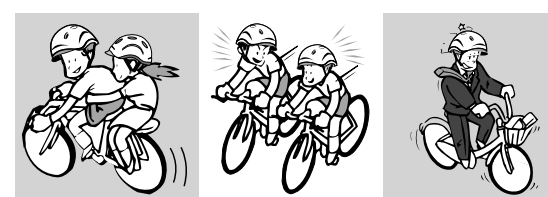
次の様な運転はしない

●ヘッドフォンを使用しながらの運転。
●傘差し運転。
●携帯電話を操作しながらの運転。

2 人乗り、並進、飲酒運転は禁止

● 6 歳未満の子供をチャイルドシートに 1 人乗せる場合などを除き、2 人乗りは禁止です。（幼児 2 人同乗用自転車を除く）
●「並進可」標識のある場所以外は並進は禁止です。
●飲酒運転は禁止です。

安全上のご注意(5)

必ずお守りください

けがをせずに、ほかの人にも迷惑をかけないために、乗りかたや交通ルールを守りましょう。
安全のため、ヘルメットの着用をお勧めします。

交通事故を防ぐために

自動車や子供に注意！
安全を確認し、乗りましょう

車の横を走るときに！

開くドアや人の飛び出しに注意する

学校や公園が近くにあるときに！

子供の飛び出しに注意する

交差点を通るときに！

左折車に巻き込まれないように注意する

転倒事故を防ぐために

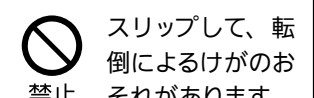
こんなとき

■雨・風・雪のひどいときは乗らない

禁止

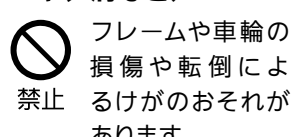
バランスを崩し、転倒によるけがのおそれがあります。

■合図以外は、ハンドルから手を離さない

禁止

バランスが取りにくく、転倒によるけがのおそれがあります。

こんな場所

■滑りやすい所では乗らない（積雪や凍結した道、鉄板やぬかるみなど）

禁止

スリップして、転倒によるけがのおそれがあります。

●降りて、押して歩いてください。

■凹凸の激しい所を走らない（歩道の段差や、溝など）

禁止

フレームや車輪の損傷や転倒によるけがのおそれがあります。

●降りて、押して歩いてください。

こんな乗りかた

■巻き込みやすいものを車輪やギヤに近接させて乗らない（長いスカートやマフラー、傘やペットのひもなど）

禁止

車輪やギヤに巻き込まれ、転倒によるけがのおそれがあります。

■滑りやすい靴や、かかとの高い靴、厚底靴などをはいて乗らない

禁止

ペダルから足が外れ、転倒によるけがのおそれがあります。

■傘やステッキ、釣りざおなどを車体に差し込んだり、釣り下げたりして乗らない

禁止

車輪に巻き込み、ほかの人や物にぶつけて事故や転倒によるけがのおそれがあります。

■手やハンドルに荷物をかけたり、ペットをつないだりしない

禁止

荷物やひもが、車輪に巻き込まれ、バランスを崩し、転倒によるけがのおそれがあります。

■土踏まずやかかとでペダルを踏まない

禁止

カーブでつま先が前車輪に当たり転倒によるけがのおそれがあります。

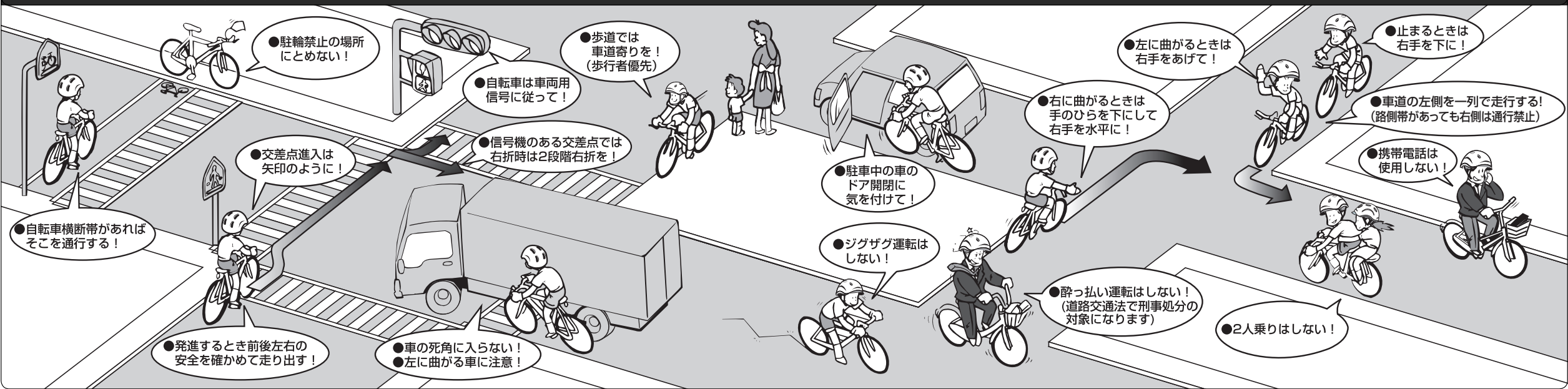
■カーブで曲がる側のペダルを下げない

禁止

ペダルが地面と接触し、転倒によるけがのおそれがあります。

こんな使いかた

■走行以外に使わない（踏み台代わりなど）

禁止

転倒によるけがのおそれがあります。

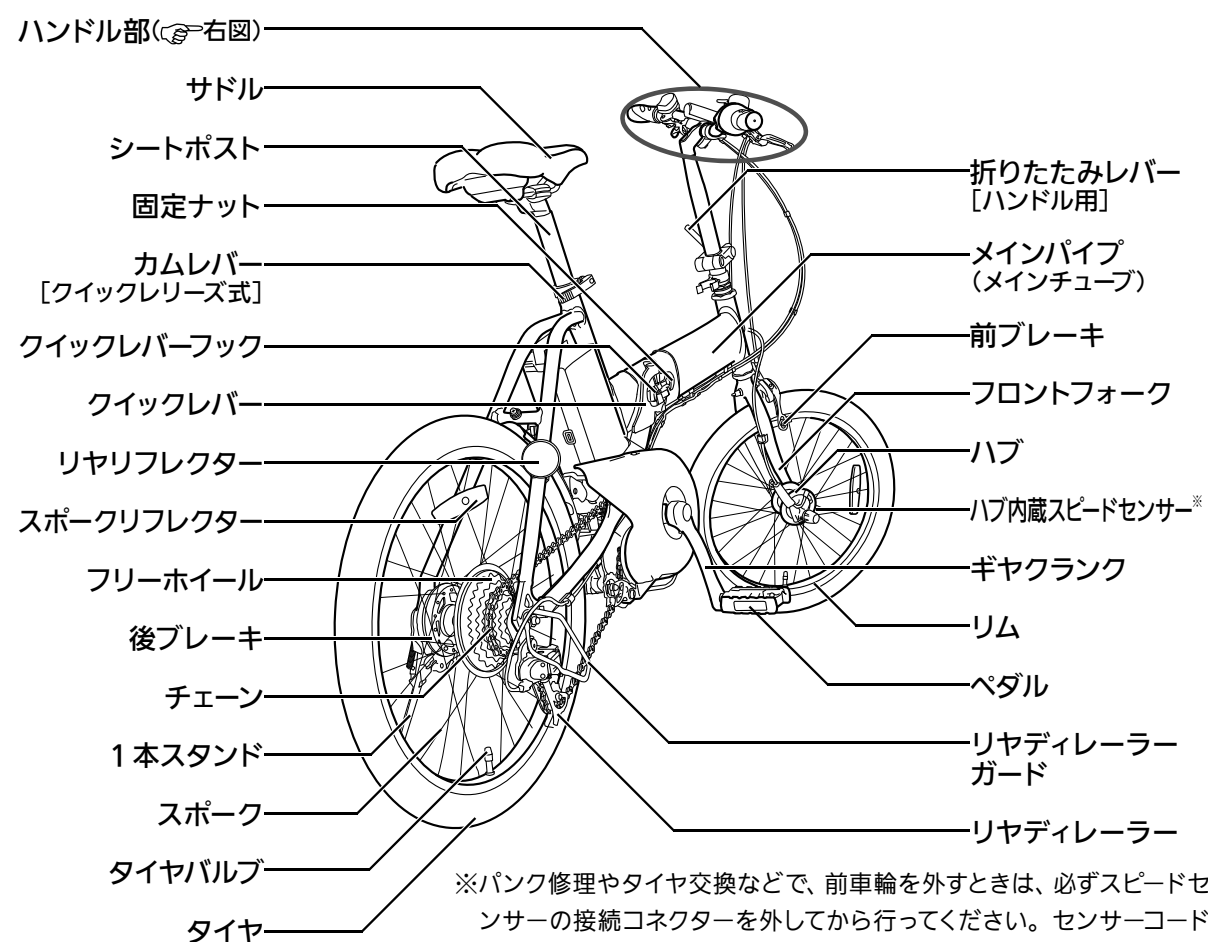
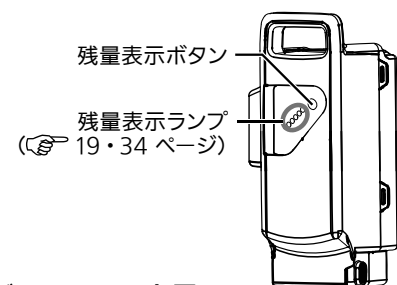
■スポークの間に固形物（ボールなど）を入れて走らない

禁止

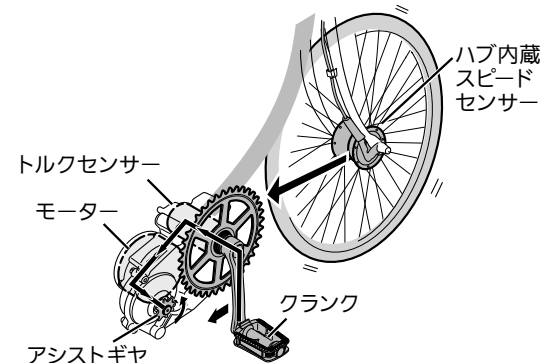
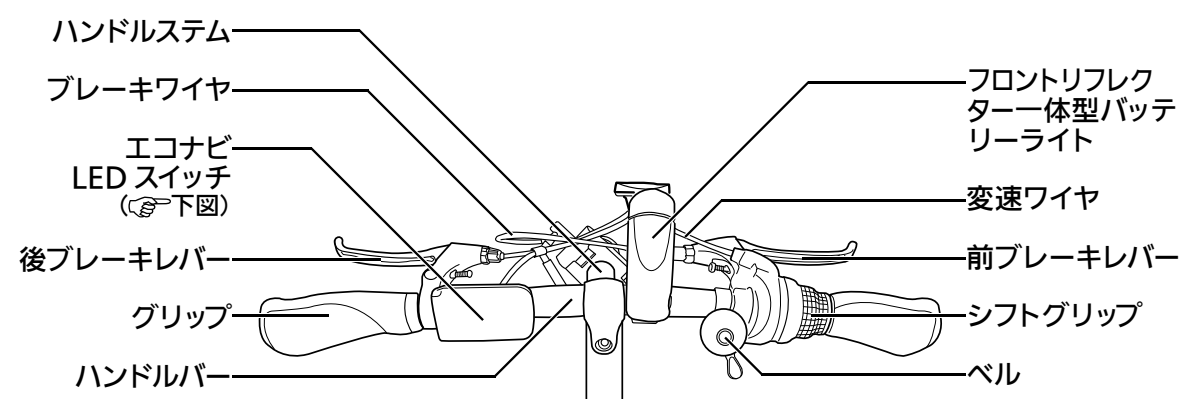
車輪に巻き込まれて転倒によるけがのおそれがあります。

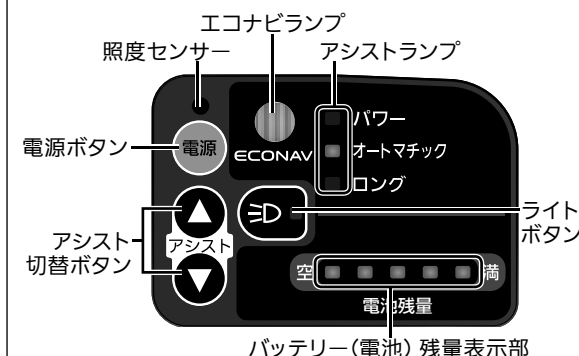
自転車で道を走るときのルール・マナー

各部のなまえ(1)

※パンク修理やタイヤ交換などで、前車輪を外すときは、必ずスピードセンサーの接続コネクターを外してから行ってください。センサーコードが断線するおそれがあります。詳しくは販売店にお問い合わせください。

■バッテリー

●バッテリーの容量
(☞ 44・55 ページ)

■駆動ユニット

ペダルの踏力を感知するトルクセンサーに加え、走行スピードを感知するハブ内蔵スピードセンサーを新たに搭載しました。2 つのセンサーが同時に働き、アシスト力を調整することで、よりなめらかな加速とアシストの持続を実現しています。

■エコナビ LED スイッチ(手元スイッチ)

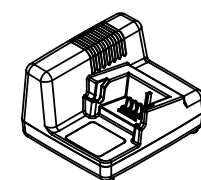
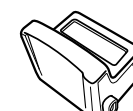
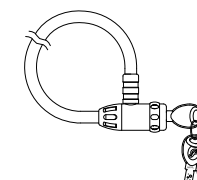
●エコナビランプ(☞ 35 ページ)

※電源ボタンまたはライトボタン「入」のとき、バックライトが点灯し、夜間もボタン操作がしやすくなっています。

お願い

●自転車をご使用になる際は、必ず保護フィルムをはがしてからご使用ください。照度センサーの感度が悪くなる場合があります。

■付属品

自転車本体のほかに下記のものがすべて含まれていることをご確認ください。

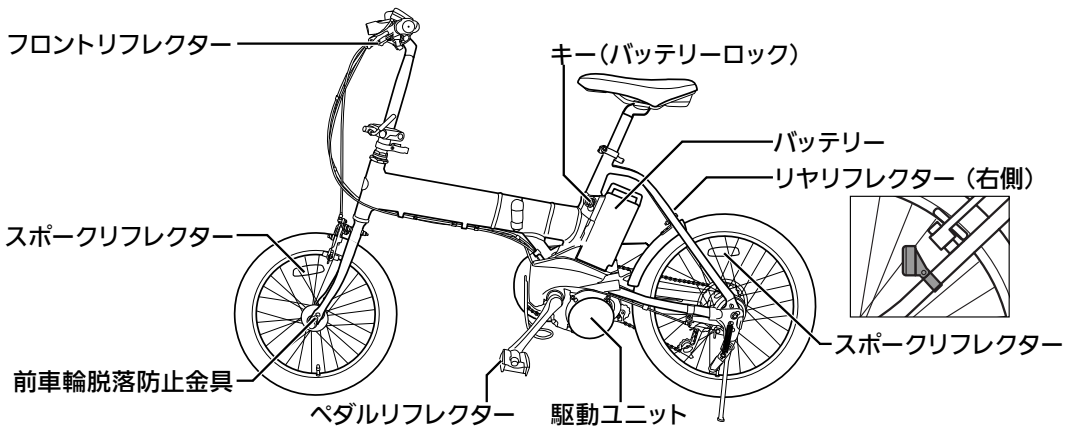
●充電器 ●ご愛用者登録はがき(プライバシー保護シール付) ●スペアキー(2 本)
●端子カバー ●かんたん操作ガイド ●ワイヤ錠
●取扱説明書 ●締め付けバンド(× 2)
●保証書

充電器
(☞ 18～20 ページ)

端子カバー
(☞ 18～20 ページ)

ワイヤ錠

●充電のしかた
(☞ 18 ～ 20 ページ)

■走行時ワイヤ錠を車輪の近くやハンドルにぶらさげない

禁止

スポークに巻き込んだり、ハンドルが取られたりし、転倒によるけがのおそれがあります。

各部のなまえ(2)

■キー(バッテリーロック / ワイヤ錠)

お願い

- キーの番号は、キー本体と保証書に記載されています。キーは、紛失しないよう大切に保管し、キー番号は控えておいてください。(キー本体と保証書にキー番号が記載されていますが、本取扱説明書の 59 ページのキー番号欄に記入しておかれることをお勧めします。)
- キーを紛失された場合は、お買い求めの販売店にご相談ください。その際には、保証書とキー番号が必要ですので、必ずご持参願います。

スペアキー
キー番号

■安全装置は取り外さない

禁止

外したまま使用すると、事故発生によるけがのおそれがあります。

■安全装置

スポークリフレクター

横からの光を反射します

前車輪脱落防止金具

前車輪の脱落を防止します

リヤリフレクター
(後部反射器)

後からの光を反射します

フロントリフレクター
(前部反射器)

前からの光を反射します

ペダルリフレクター

前後からの光を反射します

※リフレクターが破損した場合は、直ちに新品と交換してください。
(リヤリフレクターが破損したままでの夜間乗車は法令違反になります。)

■品番および型式認定済 TS マーク(保険無し)

- この型式認定済 TS マークは、国家公安委員会の型式認定を取得した製品にだけ表示することができるもので、法令の基準に適合することを明らかにするものです。
- 右上の英数字は車種品番、左上の(TS)は型式認定済 TS マークを表しています。
- このマークには、交通傷害保険は付帯していません。保険付き TS マークの貼り付けについては 50 ページを参照ください。

型式認定済 TS マーク

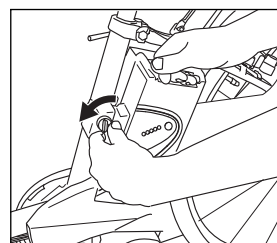
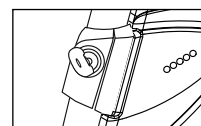
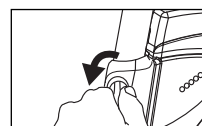
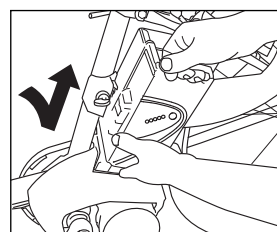
車種品番

■車体番号(刻印位置)

防犯登録に必要で、9 文字(数字と英字)で表示しています。
※マークをはがしたり、傷つけたりしないでください。

1. 手元スイッチの電源を切る

手元スイッチの電源ボタンを押して電源を切る。(全ランプ消灯)
電源を切らないでバッテリーを外すと故障の原因になります。

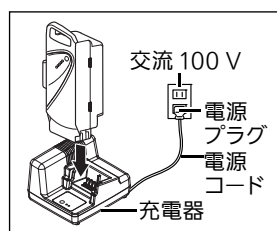
2. バッテリーロックを外し、バッテリーを取り外す

バッテリーを支え、バッテリーロックキーを反時計方向に 60 度回す。
(開錠状態のままキーを固定できます。)
バッテリーをゆっくり手前に倒す。

開錠状態のまま固定が可能
(この状態ではキーは抜けません)

両手で支えながら引き上げて外す。バッテリーロックキーを時計方向に 60 度戻しキーを抜く。

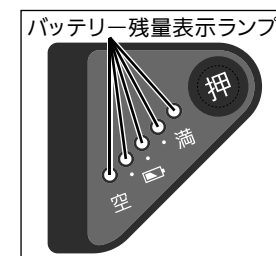
⚠ 注意

■バッテリーを支えてからバッテリーロックキーを回す
落下し、けがをするおそれがあります。

■バッテリーは両手で扱う
落下して破損し、けがをするおそれがあります。

お願い
●バッテリーを取り外したあと、バッテリーロックキーを抜き、保管してください。
●長期間、バッテリーを取り外したままにするときは、汚れやほこりが付かないように、付属の端子カバーを装着してください。

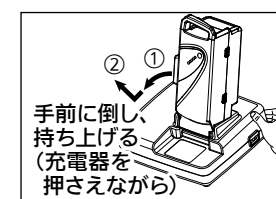
3. バッテリーを充電器にセットする

電源プラグをコンセント(交流 100 V) に差し込み、バッテリーを充電器に奥まで押し込む。

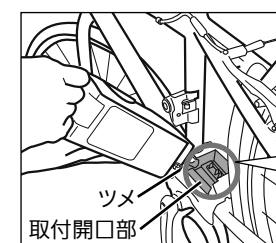
4. 残量表示ランプを確認する

バッテリーの残量表示ランプの点灯(赤色)を確認する。
(充電状態に応じた表示になります。)

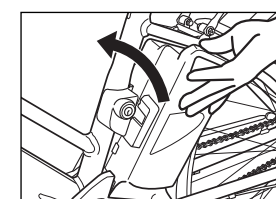
残量表示ランプ点灯・点滅(充電中) ……▶ 残量表示ランプ消灯(充電完了)

お願い
●充電時間の目安は仕様表(55 ページ) をご覧ください。

お知らせ
●走行直後などバッテリー内部の温度が上昇しているときは、充電できないことがあります。バッテリー内部の温度が規定温度まで下がれば、充電を開始します。
(周囲の温度により、充電開始までに 1 〜 2 時間かかる場合があります。)

5. バッテリーを充電器から外す

残量表示ランプが消灯(充電完了)していることを確認し、充電器を押さえながらバッテリーを外したあと、コンセント(交流 100 V)から電源プラグを抜く。
※充電器の待機消費電力は仕様表(55 ページ) をご覧ください。

6. 自転車の取付開口部から端子カバーを外し、バッテリーを乗せる

取付開口部溝とバッテリーのツメを合わせながら乗せる。
(残量表示ランプのある面を手前にする。)

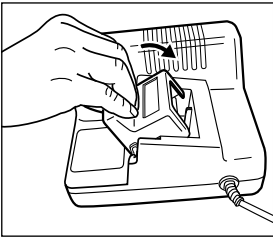
7. バッテリーを起こす

バッテリーを「カチッ」と音がするまで、垂直に起こす。
(バッテリーのカドを支点にして、弧をえがくように起こす。)

お願い
●装着後、バッテリーを手前に引いてみて、確実に装着されたことを確認してください。

⚠ 注意

■バッテリーが確実に装着されたことを確認する
落下し、けがをするおそれがあります。

■バッテリーとフレームの間に指を入れない
指を挟み、けがをするおそれがあります。
禁止

8. 充電器に端子カバーを装着する

お願い

●汚れやほこりが付くのを防ぐため、取り外した端子カバーは、充電器の充電端子部にかぶせておいてください。

充電するときのポイント

お願い

●初めて乗る場合や、1か月以上乗られていないときは、必ず充電してください。(出荷時は、満充電していません。)
●充電時の周囲気温は、5 ℃～ 35 ℃の場所で充電してください。(結露しないようご注意ください。)
●充電器には、水やほこりがたまらないよう、ご注意ください。
●雨天走行後に充電するときは、水分をふき取ってから充電してください。(充電器内に水が入って故障の原因になります。)
●充電器は、必ず、外装箱から出して、ご使用ください。(充電中の熱により、ケースなどが変形するおそれがあります。)
●使用しなくても、3 か月に一度は充電してください。(☞ 44 ページ)
●テレビ・ラジオなどのそばで充電した場合、雑音が入ったりテレビの画面がちらついたりするときがあります。その場合は、電化製品から離して(コンセントを変えるなど) 充電を行ってください。

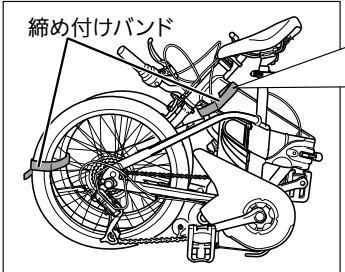
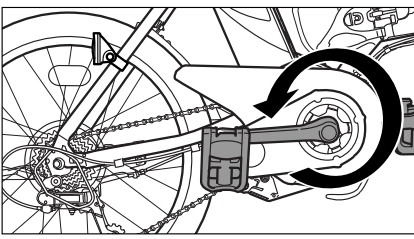
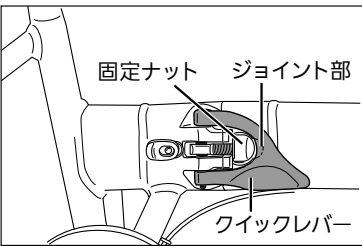
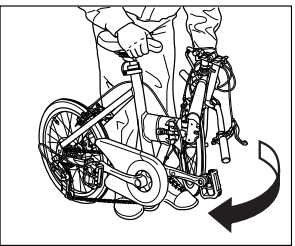
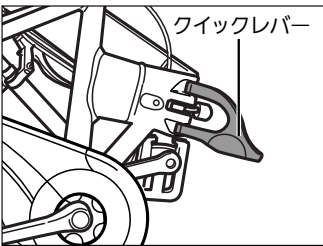
お知らせ

●バッテリー保護のために、満充電からの再充電はできません。
●バッテリー温度が低い場合は、充電時間が長くなります。
●リチウムイオンバッテリーは、メモリー効果がありませんので、リフレッシュ充電※は不要です。
※リフレッシュ充電とは、バッテリー性能を回復させるため一度放電させたあと、充電を行うことです。

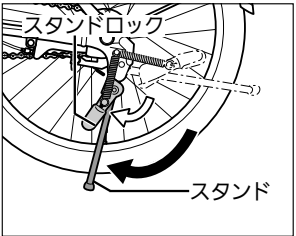
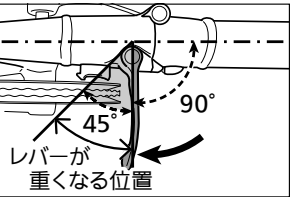
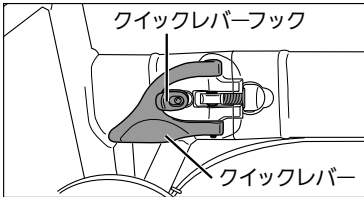
1. 車両本体(車体部) を組み立てる

警告

■メインパイプのジョイント部分を持って開閉しない	■クイックレバーフックをかけて走行する	■固定ナットが奥まで確実にはまっているか確認する
禁止　指や手を挟んでけがをするおそれがあります。	転倒によるけがのおそれがあります。	メインパイプのジョイント部分が開き、転倒によるけがのおそれがあります。

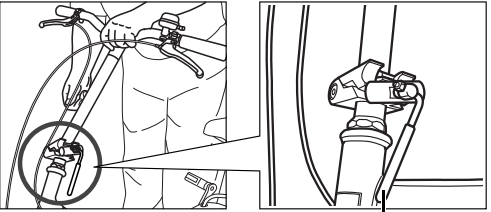
①締め付けバンドを外す。

②右側のペダルが後方になっているか確認する。

③クイックレバーが進行方向(前方)にあることを確認し、2 つ折りになっている自転車を開く。固定ナットがジョイント部へ入り込み、仮固定します。

お知らせ

●クイックレバーが進行方向(前方) に向いていると、ジョイント部へ固定ナットが入りやすくなります。

③スタンドを立てる。

④クイックレバーを後方へ回転させる。

⑤クイックレバーをクイックレバーフックに引っ掛かるまで、確実に閉める。

お願い

●クイックレバーの回転が、フレームと直角(90°) の位置にくるまでに重くなる場合や、後方 45° の位置を越えても手ごたえが無い場合は、販売店に固定ナットの調整をご依頼ください。
●組み立て後は、クイックレバーにクイックレバーフックが確実に引っ掛かり、クイックレバーが動かないことを確認してください。

2. ハンドルを組み立てる

①ハンドルを起こす。（折りたたみレバーのねじは緩めておいてください。）

⚠警告

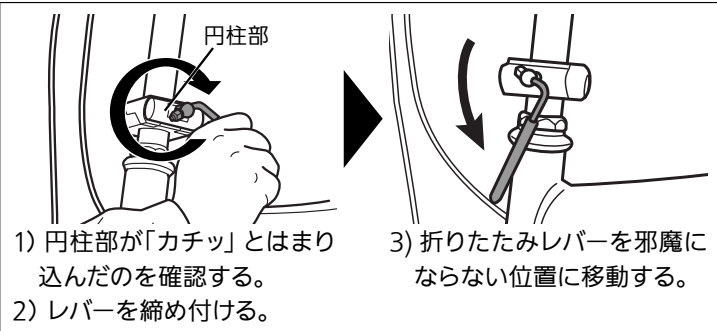
■ジョイント部分を持ってハンドルを起こさない

禁止　指や手を挟んでけがをするおそれがあります。

■ハンドルの締め付けを確認せずに乗らない

■ハンドルを締め付けてもガタや緩みがあるときは乗らない

禁止　走行中、ハンドルが折れ曲がり、転倒によるけがのおそれがあります。

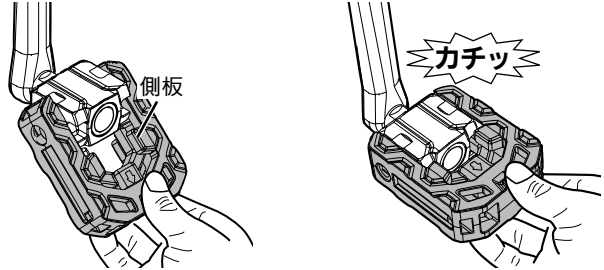
②折りたたみレバーは、時計方向に締め付けたあと、邪魔にならない位置に移動する。（レバー先端に約 150 N{15 kgf} の力で締め付けてください。）

お願い

●組み立て後は、ハンドルが確実に固定され、がたつきが無いことを確認してください。

お知らせ

●ハンドルの高さは調整できません。

3. 左右のペダルを組み立てる

①側板に手を添えて、水平に「カチッ」と音がするまで持ち上げる。

⚠警告

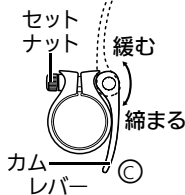
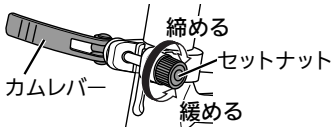
■側板と本体の間に指を入れない

禁止　指や手を挟んでけがをするおそれがあります。

■組み立て後はがたつきが無いか点検する

踏み外して転倒によるけがのおそれがあります。

4. シートピンの初期調整をする

①セットナットを回転させ、固定の強さを調整する。

●カムレバーが、Ⓒの位置でシートポストの固定が緩い場合

①カムレバーを開ける。

②セットナットを 1/2 ～ 1 回転締め込む。

③カムレバーをⒸの位置まで閉める。

お願い

●カムレバーを閉じるときの力は、レバー先端に 150 N{15 kgf} 程度の力で閉じられるようにセットナットを調整してください。

⚠警告

■カムレバーは、後方向に確実に閉める

固定が外れ、転倒によるけがのおそれがあります。

⚠注意

■カムレバーを開けるときは、サドルを支え持つ

サドルが落下し、手や指を挟んでけがをするおそれがあります。

②サドルを前方に回転させ、カムレバーを回転させずに、開閉によって締め付ける。

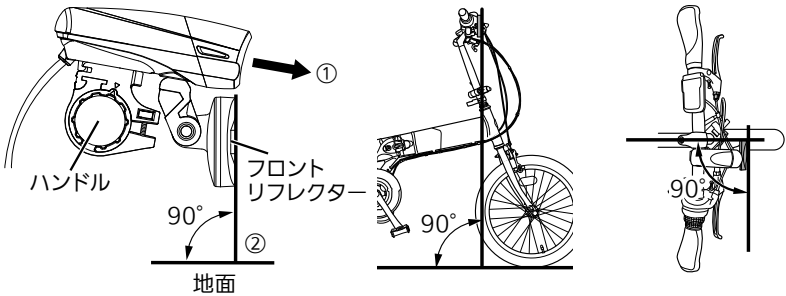
⚠警告

■調整後は必ずがたつきやずれが無いか点検をする

シートポストが折れたり、固定が不安定になったりし、転倒によるけがのおそれがあります。

5. バッテリーライト、フロントリフレクターの調整確認

①バッテリーライトが、前方 10 m の路面を照らす角度になっているか確認してください。

②フロントリフレクターの反射面が地面および前車輪に対して直角になっているか確認してください。

お願い

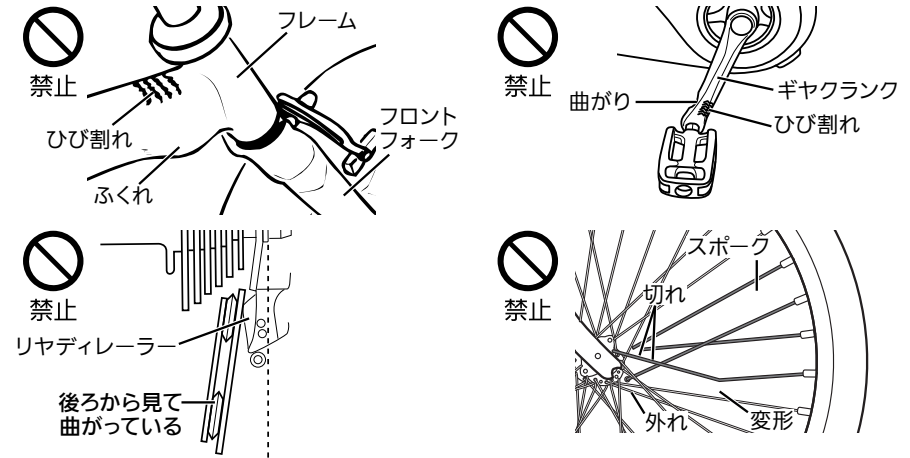
●バッテリーライトの角度を変更すると、フロントリフレクターの角度も変わってしまうため必ずライト角度調整後、フロントリフレクターの角度調整を行ってください。

乗るまえの点検と調整(1)

日常、必ず実施する習慣をつけましょう。

安全にご乗車いただくため、乗るまえに次の点検、調整と走行テストを実施する習慣をつけましょう。

⚠ 警告

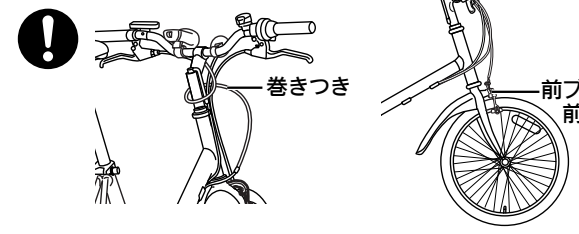
■各部にガタや緩みおよび、変形・ひび割れなどがあるときは乗らない

折れて転倒による、けがのおそれがあります。

●ひび割れや変形を見つけたら、すぐに乗るのを止めて、販売店で点検、交換をしてください。

●フロントフォークは衝突などの強い力を受けたとき、変形することによって乗員や車体への衝撃を和らげるように設計してあります。衝突や転倒など強い衝撃が加わったあとは、フロントフォークに変形やひび割れなどの異常が無いか点検してください。

●スポークが1本でも切れたまま使用を続けると、ほかのスポークに負担がかかり寿命が短くなります。切れたスポークは直ちに交換してください。できれば、すべてのスポークを交換されることをお勧めします。

●ハンドルを締め付けてもガタ・緩みがあるときは、すぐに乗るのを止め、販売店で点検をしてください。

■前車輪の方向およびブレーキワイヤや変速ワイヤが、ハンドルステムやフレームに巻きついていないかを確認する

ブレーキの利き過ぎまたは、利かなくなり、転倒や衝突によるけがのおそれがあります。

■乗るまえの点検は、必ず実施する

事故や転倒によるけがのおそれがあります。

●前後ブレーキの利き、作動の点検をしてください。
●ハンドル・ハンドルステムが、確実に固定されているか点検してください。
●前後車輪が、確実に固定されているか点検してください。
●前後タイヤの空気圧が適正か点検してください。
●バッテリーが確実に装着されているか確認してください。
●ワイヤ類(ブレーキ、変速機、手元スイッチコード、バッテリーライトコードなど)がたるんでいないか確認してください。

■点検で変形や曲がり、ひび割れなどの異常があったときは、乗車しない

事故や転倒によるけがのおそれがあります。
●異常があったときは販売店にご相談ください。

禁止

■自転車部品の点検(電源を切った状態で行ってください)

サドル・シートポスト(☞27ページ)
◎サドルに座って、両足が地面に着くか? ◎はめ合わせ限界標識が、見えていないか?
◎ペダルをこぐとき、ひざがハンドルに当たらないか?

ハンドル・ハンドルステム
◎固定は確実か?
●ハンドルの高さ調整はできません。

グリップ〈左・右〉
◎ひび割れは無いか? ◎抜けないか?
◎回らないか?

フロントリフレクター一体型バッテリーライト(☞30～31ページ)
◎点灯するか? ◎割れやがたつき、汚れは無いか?
◎前からの光を反射する角度になっているか?

ベル
◎よく鳴るか? ◎固定は確実か?

ブレーキレバー〈前・後〉(☞28～29ページ)
◎よく利くか? ◎ワイヤのさびやほつれは無いか?
◎固定は確実か? ◎作動は円滑か?

ハンドル折りたたみ部
◎がたつきが無いか?
◎ハンドル折りたたみレバーは下がっているか?

ジョイント部の固定
◎がたつきが無いか?
◎クイックレバーは、クイックレバーフックに引っ掛かっているか?

クイックレバーフック
固定ナット
クイックレバー

前ブレーキ(ブレーキブロック)(☞28～29ページ)
◎すりへっていないか? ◎異物は付いていないか?

スポークリフレクター
◎割れやがたつきは、無いか?

フレーム・フロントフォーク
◎ひび割れや変形は無いか?

ハブ内蔵スピードセンサー
◎がたつきは無いか? ◎カバーが外れていないか?
◎コードが切断したり、外れたりしていないか?

ハブナット
◎車輪にがたつきは、無いか?

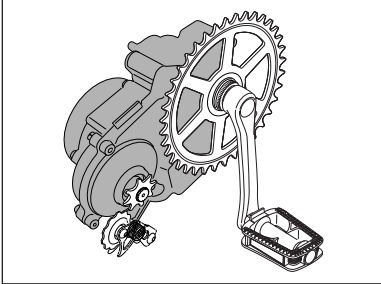
ペダル・ギヤクランク
◎がたつきは、無いか? ◎側板の固定は確実か?
◎ひび割れや曲がりは無いか?

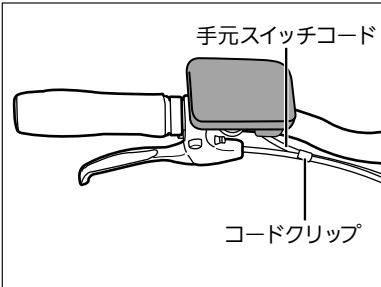
ペダルリフレクター
◎割れやがたつき汚れは、無いか?

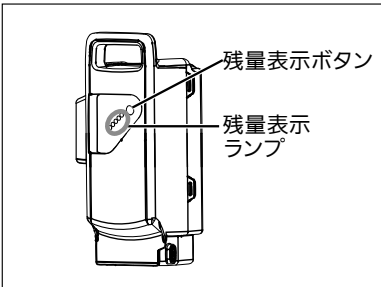
チェーン
◎空回りしないか? ◎油切れは無いか?
◎小石などが挟まってないか?
◎歯飛びや異常な音(バリバリ音など)は無いか?

リヤディレーラー
◎後ろから見て曲がりは無いか?

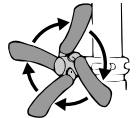
リヤリフレクター
◎割れや、汚れは無いか?
◎反射面の角度は適切か?

車 輪〈前・後〉
◎固定は確実か?
◎リムに振れ、変形は無いか?
◎スポークに曲がり、切れは無いか?
◎ハブにがたつきは無いか?
◎タイヤに摩耗、切傷は無いか?
異物は付いていないか?
空気圧は適正か?(☞29ページ)

■駆動ユニット、手元スイッチ、バッテリーの点検

●駆動ユニット

電源を入れたとき
◎異常な音はしていないか?
◎異臭はしていないか?
◎モーター部や底部が高温になっていないか?
外観を見て
◎バッテリー取り付け端子部が汚れていないか?(☞ 46 ページ)
ペダルに力を加えてみて
◎駆動ユニットがフレームに対してがたついていないか?

●手元スイッチ

電源を入れたとき
◎残量表示部、アシスト表示ランプが点灯するか?(☞ 36 ページ)
◎ライトボタンを押すとライトは点灯するか?(☞ 30 ページ)
外観を見て
◎手元スイッチのケースや操作スイッチ部にひび割れなどが無いか?
◎ハンドルを曲げたとき、手元スイッチコードが突っ張っていないか?
◎コードクリップは外れていないか?

●バッテリー

残量表示ボタンを押したとき
◎残量表示ランプが点灯するか?(☞ 34 ページ)
外観を見て
◎ケースにひび割れや変形、ねじの緩みなどは無いか?
車体に装着してみて
◎車体に装着したとき、しっかりと車体にはまっているか?
(☞ 19 ページ)

■サドルの高さ調整

⚠警告

■はめ合わせ限界標識が見えるまで上げない

禁止

■カムレバーを回転させて締め付けない

禁止

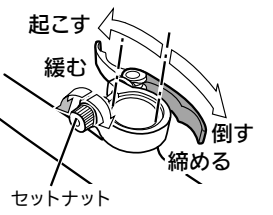
■調整後は必ずがたつきやずれが無いか点検をする

シートポストが折れたり、カム機構が動かなくなったりし、転倒によるけがのおそれがあります。

■サドルの上面が傾いたまま走行しない

禁止

サドル固定ボルトが折れたり、固定が不安定になったりし、転倒によるけがのおそれがあります。

●高さと向きの調整

①サドルを支え持つ。
②カムレバーを前方向に起こす。
③サドルの高さと向きを調整する。
④カムレバーを後方向に倒す。

●カムレバーを後方向に倒してもサドルが固定できないとき

①カムレバーを前方向に起こす。
②セットナットを締める方向に 0.5 ～ 1 回転回す。
③カムレバーを後方向に倒す。
④サドルが固定されていることを確認する。

お願い

●カムレバーを閉じるときの力は、レバー先端に 150 N{15 kgf} 程度の力で閉じられるようにセットナットを調整してください。

●正しい方向

フレームと平行に合わせる。

●正しい角度

サドルの上面と地面を平行にする。

●サドルの点検

上下・左右交互に強い力を加え、がたつきやずれが無いこと。

お願い

●さびつきを防止するために、シートポスト(立パイプに挿入されている部分)に、薄くグリスを塗ってください。
●サドル上面が傾いたままご使用されますと、サドル固定ボルトが折れる場合があります。
●角度の調整は販売店にご依頼ください。

お知らせ

●サドル抜け防止機構のため、サドル(シートポスト)を引き抜くことはできません。

わからないときは、販売店にご相談ください。

■ブレーキの点検(応急調整後の再点検・再調整は販売店に依頼してください)

⚠警告

■ブレーキレバーの遊びが大きいままや、小さいままで走行しない

禁止

ブレーキが利かなくなったり、利き過ぎたりすることがあり、転倒や衝突によるけがのおそれがあります。

●ブレーキが利かないときやブレーキレバーの遊びが不適切なときは、すぐに販売店で点検を受けてください。

■ロックナットは確実に締め付ける

ブレーキの調整が狂い転倒や衝突によるけがのおそれがあります。

■ローラーブレーキグリスの補給には、必ずローラーブレーキ専用グリスを使用する

制動力が低下し、転倒や衝突によるけがのおそれがあります。

●販売店でローラーブレーキ専用グリス(当社品番：NBP002)を補給してください。

■音鳴りがしたり、ブレーキが利き過ぎたりする場合は使用しない

禁止

転倒や衝突によるけがのおそれがあります。

●すぐに販売店で点検を受けてください。

⚠注意

■走行直後は、ブレーキ部に手を触れない

接触禁止

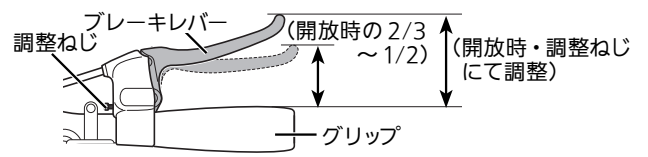
ブレーキ部が高温になり、やけどの原因になります。

お知らせ

●平成 25 年 12 月 1 日より、制動装置(ブレーキ)に不備のある自転車と認められる自転車が運転されているときは警察官が停止させ検査が出来るようになりました。停止や検査を拒んだり、運転継続禁止命令に従わなかった場合は罰金が科せられる場合があります。

※下記はブレーキの調整ねじを使用した応急的な調整方法です。販売店でブレーキワイヤを張り直すなど、点検・再調整を行ってください。

●ブレーキレバーとグリップの間隔

ブレーキレバーとグリップの間隔は、開放時の 2/3 ～ 1/2 の位置で、ブレーキが利きだすように、調整する。

お願い

●上記の調整範囲は目安です。調整後は必ずブレーキテストをしてください。

●前ブレーキ

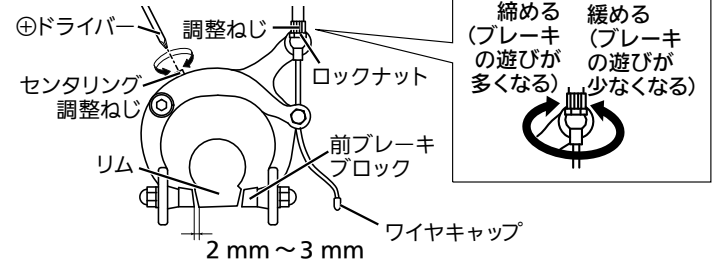
①ロックナットを緩める。
②調整ねじを回す。
③センタリング調整ねじで、リムと前ブレーキブロックのすき間が左右均等になるように調整する。
④走行してブレーキの利きを確認する。
⑤調整ねじが緩まないよう、ロックナットを適正締付トルクで締め付ける。
締付トルク：1 N･m ～ 2 N･m{10 kgf･cm ～ 20 kgf･cm}

●後ブレーキ(ローラーブレーキ)

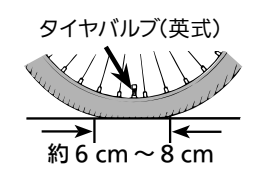
①ロックナットを緩める。
②クランクを押しながら、調整ねじを回す。
③ブレーキの利きを確認する。
④調整ねじが緩まないよう、ロックナットを適正締付トルクで締め付ける。
締付トルク：1 N･m ～ 2 N･m{10 kgf･cm ～ 20 kgf･cm}

ロックナット
グリス補給口
緩める(ブレーキの遊びが少なくなる)
締める(ブレーキの遊びが多くなる)
調整ねじ
クランク

お願い

●確実な制動力を得るために、通常 1 ～ 2 年に 1 回程度は販売店でローラーブレーキ専用グリスを補給してください。
●ブレーキ調整が不適切な場合、ブレーキが利き過ぎや、逆に利かないことがあります。また、使用によるなじみや摩耗で、ブレーキの利き具合が変わります。ブレーキが利きにくい場合は、販売店で点検を受けてください。

■空気圧の調整(前後のタイヤ)

●適正な空気圧

自転車に乗った状態で接地部の長さが、約 6 cm ～ 8 cm 程度が、適正です。
圧力計の付いたポンプでは、空気圧の測定が可能です。
300 kPa ～ 400 kPa{3.0 kgf/cm2 ～ 4.0 kgf/cm²} が適正です。

お知らせ

●長期間使用しない場合は、空気圧は自然に減ります。
●タイヤバルブの型式は、英式です。

●空気の入れ方

自転車用のポンプを使って空気を入れます。

■タイヤについて

⚠警告

■パンクしたまま走行しない

禁止

ハンドルが取られ、転倒や衝突によるけがのおそれがあります。

お願い

●走行まえにタイヤに異物が刺さっていないか点検してください。パンクやタイヤ・リムを損傷する原因になります。
●タイヤの空気圧は 300kPa{3.0kgf/cm²} 未満では使用しないでください。タイヤのひび割れ、偏摩耗やパンクの原因になります。
●ストーブなどの熱源の近くに置かないでください。
●ガソリン・有機溶剤・油類が付着したときは、すぐにふき取ってください。

■バッテリーライトの取り扱い(LED スポーツバッテリーライト)

⚠ 警告

■ライトの取り付けが緩んだまま、走行しない

禁止

照射位置が狂い、衝突や転倒によるけがのおそれがあります。

■目に光を当て続けない

禁止

目を痛める原因となります。

■夜間や視界の悪いときは点滅状態や無灯火で乗らない

禁止

衝突や転倒によるけがのおそれがあります。

●ライトがつかないときは、押して歩いてください。点滅状態や無灯火での夜間乗車は、法令違反になります。

■走りながら、照明ボタンの操作をしない

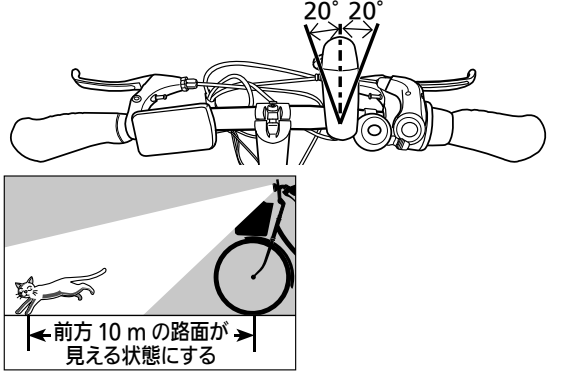
禁止

衝突や転倒によるけがのおそれがあります。

●いったん停止して、操作してください。

●角度の調整

バッテリーライトは左右各 20°ずつ方向を変えることができます。運転者から前方 10 m の路面を照らすような角度に調整してください。

締付トルク：
0.6 N･m ～ 0.7 N･m{6 kgf･cm ～7 kgf･cm}

お知らせ

●内部の LED は基板直付けのため交換はできません。
●アシストがなくなっても、バッテリーライトは点灯します。しばらくするとゆっくり点滅してから消灯しますので点滅状態になったら降りて押してください。
●レンズは取り外せません。無理に取り外すと、本体が壊れる原因になります。
●バッテリーライトは規定角度以上動かさないでください。無理に動かすと、組み付け部が破損するおそれがあります。
●対向者にまぶしくならない角度に調整してください。

●点灯方法(手動の場合)

①ライトボタンを押すと、バッテリーライトが点灯します。
②再度ライトボタンを押すと、消灯します。

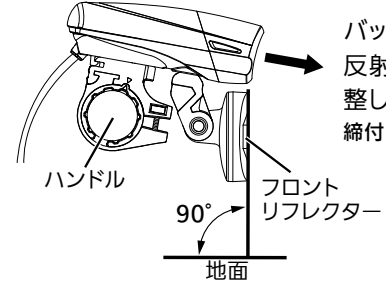
●オートライト機能(自動点灯)

電源が『入』の状態で
暗くなると、自動で点灯します。明るくなると、自動で消灯します。

※バッテリーライトは手元スイッチの電源の入切に関係なく点灯・消灯することができます。
※停止して約 10 分後、自動で消灯します。
※ライトボタンを操作すると、オートライト機能は働きません。

●照度センサーについて

自転車をご使用になる際は、必ず手元スイッチの保護フィルムをはがしてからご使用ください。照度センサーの感度が悪くなる場合があります。また、手元スイッチの取り付け状態やご使用の周囲環境によって、意図しない点灯･消灯をする場合があります。必要に応じて、手動操作での点灯・消灯の切り替えをご使用ください。

●フロントリフレクターの点検

バッテリーライトの角度調整後、フロントリフレクターの反射面が地面および前車輪に対して直角になるように調整してください。

締付トルク : 0.7 N･m{7 kgf･cm}

走行できる距離の目安(1)

わからないときは、販売店にご相談ください。

■走行できる距離の目安

●新測定方法

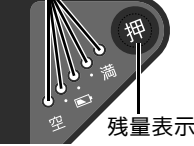
(一社) 自転車協会が定める、『電動アシスト自転車の走行距離の測定方法に関する基準(2010 年 4 月 1 日施行)』に基づき測定

走りかた	走行条件	モード	走行距離(km)
標準パターン (業界統一新テスト条件)※ A B C D 4 km	標準パターン(4 km) A は、平坦路 1 km、変速 [7]、15 km/h B は、4 度坂 1 km、変速 [4]、10 km/h C は、平坦路 1 km、変速 [7]、15 km/h Dは、4 度坂 1 km、変速 [7]、20 km/h ●印は 10 秒間の停止を表す	パワー	29 km
		オートマチック	34 km
		ロング	50 km
4 度登坂連続パターン 連続走行	4 度坂、変速 [4]、10 km/h	パワー	10 km
		オートマチック	12 km
		ロング	17 km

※(一社) 自転車協会が定める、『電動アシスト自転車の走行距離の測定方法に関する基準』に準拠したテスト条件。
先に記載している、1 満充電当たりの走行距離の測定条件は，以下のとおりです。(業界統一新テスト条件)
1) 環境温度は 20 ± 5 ℃、無風の状態
2) バッテリーは新品を用い、バッテリーライトは消灯状態
3) 車載重量(乗員と荷物の合計) は 65 kg
4) 路面は乾燥した平滑な路面
5) タイヤ空気圧はタイヤ側面に刻印されている標準空気圧
6) シャーシダイナモ(室内計測機) による計測

●各アシストモードの詳細については、35 ページをご覧ください。
●走行距離は、バッテリーの劣化度合や、発進停止・徐行後の加速・登坂路走行の頻度により短くなります。
また、冬期など気温が低いときにも短くなります。

●走行距離が短くなる環境 / 使いかた

※ 1 冬期 (寒い環境　約 5 ℃以下) では、バッテリーの性能が低下し、走行距離が大幅に短くなることがあります。
⇨ バッテリーを暖かい室内で保管し、使用するときだけ自転車に装着することで、性能低下を軽減することができます。
※ 2 風速 2 m/s の向かい風中を走行した場合、約 40 パーセント、走行距離が短くなります。
※ 3 積載質量 (乗員体重) が 10 kg 増えた場合、約 10 パーセント、走行距離が短くなります。
●充電回数の増加や使用期間が長くなることでバッテリーの容量が少なくなり、走行距離が次第に短くなります。
●バッテリーは使用しなくても少しずつ自然放電し、目安の走行距離まで走れないことがあります。
⇨ 乗車まえにバッテリーの残量確認を心掛けてください。
●そのほかにも、走行距離は、気象条件、路面の状況、自転車の整備具合、自転車の乗りかたなどにより、大幅に短くなることがあります。

走行できる距離の目安（2）

■バッテリーの残量 バッテリーの残量と目的地までの距離をよく確認してください。

バッテリーの容量が、どの程度残っているか、またはどの程度充電されているかを知ることができます。
バッテリーの残量表示ボタンを押すと、残量表示ランプが、残量を表示します。
（あくまでも目安としてご使用ください。）

バッテリー部 残量表示ランプの表示状況	バッテリー残量 20 40 60 80 100 %	手元スイッチ残量表示部の表示状況
LED ランプ 5 つとも点灯（残量表示ランプ／押／満／空／残量表示ボタン）	100 %～81 %	目盛 5 つとも 100 %～81 %（空 満 電池残量）
LED ランプ 4 つ点灯	80 %～61 %	目盛 4 つ 80 %～61 %（空 満 電池残量）
LED ランプ 3 つ点灯	60 %～41 %	目盛 3 つ 60 %～41 %（空 満 電池残量）
LED ランプ 2 つ点灯	40 %～21 %	目盛 2 つ 40 %～21 %（空 満 電池残量）
LED ランプ 1 つ点灯	20 %～11 %	目盛 1 つ 20 %～11 %（空 満 電池残量）
LED ランプ 1 つ点滅	10 %～0 %	目盛点滅 10 % 以下（空 満 電池残量）

※手元スイッチのバッテリー（電池）残量表示は、残量が 0（空）になると、1 個点滅表示から、消灯（非表示）になります。

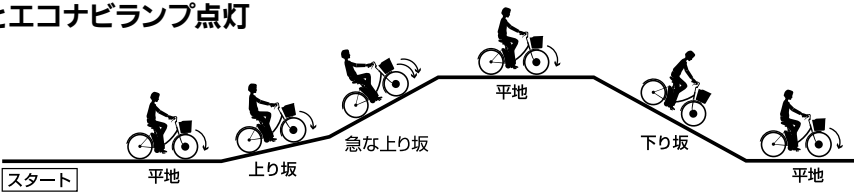
お知らせ

- ●バッテリーが新品のときや、長期間使用されていないとき、または、厳寒の日や急な坂を登ったときは、まれに、残量表示ランプが点灯していても、アシスト力が働かないことがあります。このようなときは、再度充電してください。
- ●バッテリー残量が少ない状態で一定期間放置すると保護回路が働き、電源が入らなくなる場合があります。その場合はバッテリーを充電器にセットすると解除されます。

エコナビ LED スイッチの操作方法

■エコナビ LED スイッチの操作方法（アシストモードの切り替えかた）

アシストモード「ロング」・「オートマチック」・「パワー」の切り替えは、電源が入っていれば、アシスト切替ボタンを押すだけで切り替えができます。

●アシスト力の変化とエコナビランプ点灯

モード設定／走行条件	走行条件とアシスト力、エコナビランプ点灯状態						
	スタート	平　地	上り坂	急な上り坂	平　地	下り坂	平　地
『パワー』	強 ○	強 ○	強 ○	強 ○	強 ○	アシストOFF ○	強 ○
『オートマチック』	中 ○	中 ✳	強 ○	強 ○	中 ✳	アシストOFF ✳	中 ✳
『ロング』	中 ✳	弱 ✳	中 ✳	中 ✳	弱 ✳	アシストOFF ✳	弱 ✳

エコナビ点灯 ✳　エコナビ消灯 ○

お知らせ

- ●消費電力が少ない走行時、エコナビランプを点灯してエコ運転走行をお知らせします。
- ●坂道や重い荷物を載せて走行するときは、アシスト切替ボタンを押し、「パワー」にしてください。
- ●電源を入れたときは、前回電源を OFF したときのモードで起動します（オートメモリー機能）。
- ●アシスト切替ボタンの「 △ 」と「 ▽ 」を押し過ぎてもアシストモードは一巡しません。

エ コ ナ ビ 運 転 と は

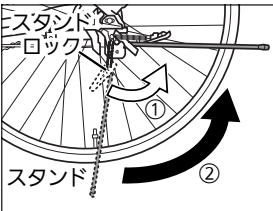
走行状態をセンサーで感知し、自動でムダを見つけて省エネ走行する「エコナビ」機能です。走行条件により、最適なアシスト力を自動的にコントロールし、省エネ走行を実現しています。

非接触磁歪式トルクセンサー

アシスト量の調整に必要な「こぐ力」を検知する際、抵抗が加わらないセンサーで、バッテリー残量が無いときでも抵抗感無く、一般的な自転車と同じような快適さです。

アシスト比率プログラム制御

走行条件により、最適なアシスト力を自動的にコントロールしています。

1. スタンドを上げ、乗車する。

スタンドロックを解除し、スタンドを後方へ完全にはね上げる。

お知らせ

●スタンドを立てたまま乗車しないでください。スタンドが壊れるおそれがあります。

2. ペダルを踏まずに電源を入れる

手元スイッチにある電源ボタンを押す。

残量表示部とアシストランプが全点灯し、約 2 秒後にアシストランプが 1 灯点灯し、残量表示部が現在のバッテリー残量を表示します。全点灯の間は駆動ユニットの初期化をしているので、ペダルを踏まないでください。

お願い

●残量表示部とアシストランプが交互に点滅するときは、ペダルを踏まないで電源を入れ直してください。

●エラー表示が出なくても、ペダルを踏みながら電源を入れた場合、ペダル入力が小さい状態と誤検出され、走行時、アシスト力が弱くなります(故障ではありません)。(☞ 52 ページ)

お知らせ

●停止して約 10 分後、自動的に電源が切れます。(オートオフシステム)
再度走行するときは、電源を入れてください。

3. 発進する

ハンドルをしっかり握ってから、前後左右の安全を確認し、ペダルを踏んで発進する。(電動補助システムが働き、作動音がします。)

⚠ 警告

■けんけん乗り（けり乗り）しない

禁止

転倒や接触事故によるけがのおそれがあります。
●必ずサドルにまたがって、発進してください。
※けんけん乗り（けり乗り）とは、片足でペダルをこぎながら助走し、反動を付けてサドルにまたがる乗りかたです。

⚠ 注意

■バッテリーロックキーを付けたまま走行しない

禁止

足に当たってけがをするおそれがあります。

お願い

●電源ボタンを押した場合、手元スイッチの残量表示部が点灯しないときは、バッテリーの充電や固定が確実にできているかを確認してください。
●慣れるまでは、踏み始めおよび坂道を上げり終えた直後のアシスト力に注意してください。
●土踏まずやかかとでペダルをこがないでください。
●走行途中では電源を入れないでください。
●停車中は、前後ブレーキをかけた状態にし、ペダルに足を乗せないでください。
●走行中に異常な音がした場合は、乗車を中止し販売店へ相談してください。

お知らせ

●走行中は、ラジオなどに雑音が入る場合があります。
●ペダルに足を乗せた状態での停車時に振動を感じる場合がありますが、駆動ユニット固有の特性によるもので、故障ではありません。
●ワイヤレス式のスピードメーターなどでは、誤表示となる場合があります。

■チャイルドシートのご使用について

●この電動アシスト自転車に、チャイルドシートを取り付けることはできません。

■リヤキャリヤのご使用について

●この電動アシスト自転車に、リヤキャリヤ(荷台) を取り付けることはできません。

わからないときは、販売店にご相談ください。

■ブレーキのかけかた

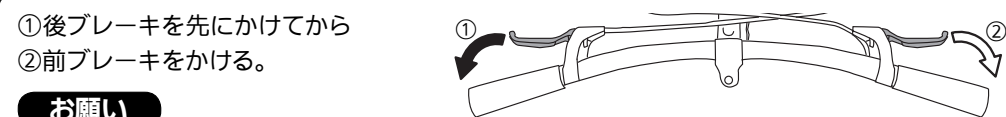
警告

■雨天時や下り坂ではスピードを出さない

禁止 制動距離が長くなったり、スリップしやすくなったりするため、衝突や転倒によるけがのおそれがあります。

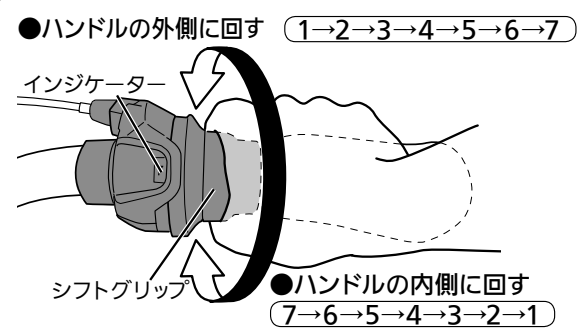
■前ブレーキだけを強くかけない

禁止 車輪がロックし、自転車が前方に転倒し、けがのおそれがあります。

①後ブレーキを先にかけてから
②前ブレーキをかける。

お願い

●急な坂道のときは、降りて押してください。
●下り坂のときは、適時ブレーキをかけながら速度が出すぎないように走行してください。
●下り坂の手前では、ブレーキテストを行ってください。
●急ブレーキをかけなくてもよいように、いつも前方に注意してください。

■変速のしかた

警告

■スピードをだしすぎない

禁止 衝突や転倒による事故の原因になります。

変速位置	ペダルの回転が	
	軽くなる	重くなる
1	↑	↓
⋮		
7		

お願い

●変速操作は、よく練習してください。
●変速時は、ペダルの踏力を弱くして変速してください。(スムーズに変速できます。)

■変速機の上手な使いかた

(標準的な変速位置を示していますが、自分の体調や脚力に合わせ、適切な変速位置をお選びください。)

推奨変速位置

平地を走るとき…

●シフトを5(から7)の位置に合わせる

発進するときは、1から2に合わせると楽です。

上り坂のとき…

上り坂の手前で…
●シフトを3(から5)の位置に合わせる

きつい上り坂のときは、1から2に合わせると楽です。

下り坂のとき…

下り坂の手前で…
●シフトを6(または7)の位置に合わせる

楽な走行をするには…

●タイヤの空気圧はいつも適切にしてください。(☞ 29 ページ)
●軽めの変速位置を選んでください。(特に発進と上り坂。)
●変速機やアシストモードは、坂や風の状態、体調などによって、最適の位置を選んでください。

警告

■こぐ力を抜いて、ペダルを空転気味に軽く回転させながら変速操作をする

間違った変速操作をすると事故や故障の原因になります。
●初めて変速機を使われる人は、よく練習してください。

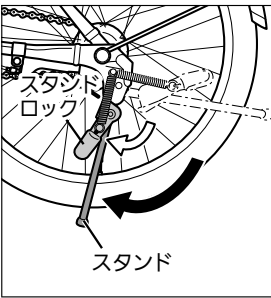
■次のような変速はしない

禁止
●ペダルを止めたままの変速
●停止しているときの変速
●ペダルを逆転させながらの変速
●ペダルを強く踏み込みながらの変速
●シフトグリップを無理に操作する変速
●一度に2段以上する変速

事故や故障の原因になります。

乗りかた

乗ったあとの駐輪・施錠

1. 自転車から降りるまえに手元スイッチの電源を切る

手元スイッチにある電源ボタンを押して、電源を切る。
残量表示部とアシストランプが消灯する。

お知らせ

●バッテリーライト点灯時、電源を切ると、ライトは消灯します。

2. 駐輪する

ブレーキを握ったまま、サドルから降りる。
スタンドを立て、スタンドロックをかける。
（オートロックの場合は自動的にロックがかかります。）

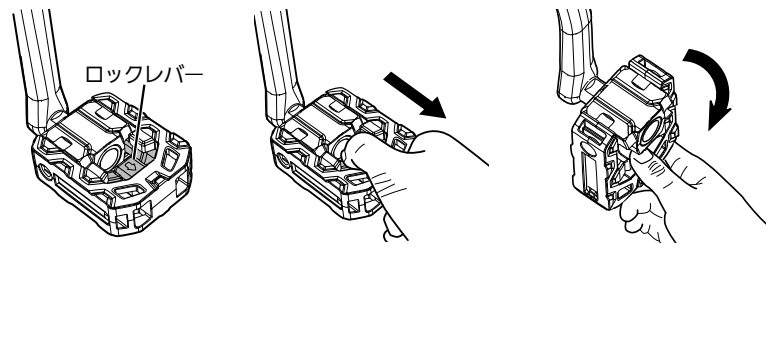
3. ワイヤ錠で施錠する

駐輪場のご注意

●駐輪場など、決められた場所に駐輪してください。
●盗難防止のため、必ず施錠して駐輪してください。

乗ったあとは…(1)　折りたたみ手順

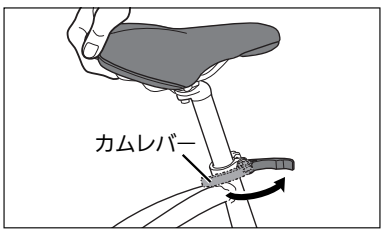
1. ペダルを折りたたむ

①ロックレバーを矢印の方向に押し込みながら、下方向に側板を下げる

注意

■側板の外側を持って作業する

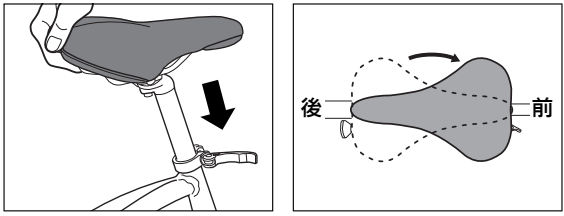
手や指を挟んでけがをするおそれがあります。

2. サドルを下げる

①サドルを支え持ちながらカムレバーを開ける。

②サドルを下げ、後方に回転させる。

注意

■カムレバーを開けるときは、サドルを支え持つ

サドルが落下し、手や指を挟んでけがをするおそれがあります。

③カムレバーを回転させずに開閉によって締め付ける。

乗ったあとは…(2)

折りたたみ手順

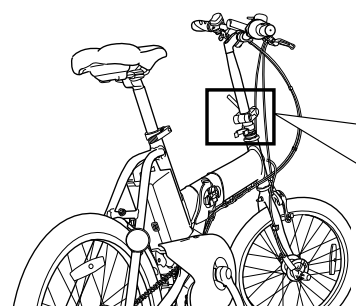
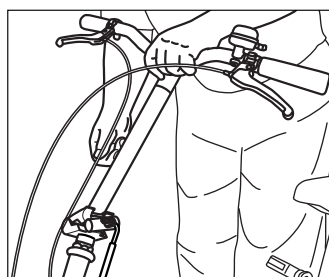
3. ハンドルを折りたたむ

①折りたたみレバーを持ち上げ、反時計方向に回転させて緩める。

■ジョイント部分を持って折りたたまない

禁止　指や手を挟んでけがをするおそれがあります。

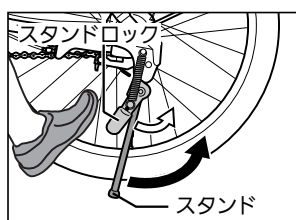
1）折りたたみレバーを持って緩める。

2）8～9回転緩める。

②ハンドルを折りたたむ。

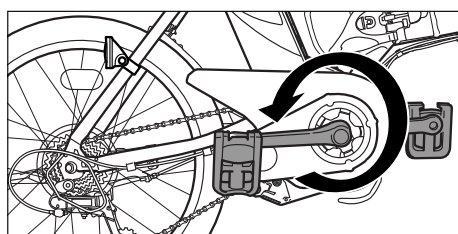
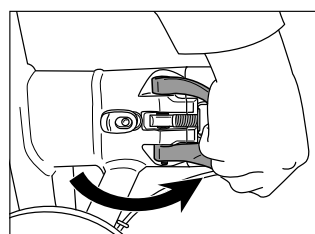
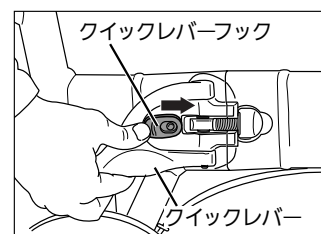
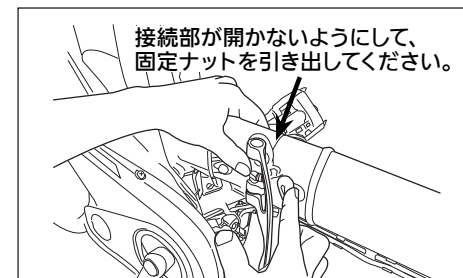
お願い

- ●ハンドルを折りたたむとき、ブレーキワイヤがジョイント部などに引っ掛からないようご注意ください。
- ●ハンドルを折りたたんだあと、折りたたみレバーを最後まで締め付けてください。

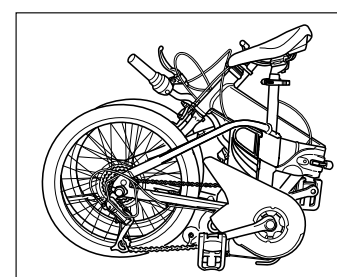
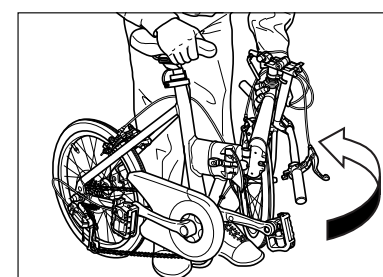
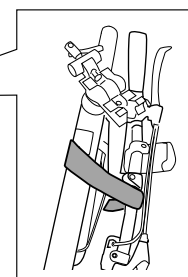
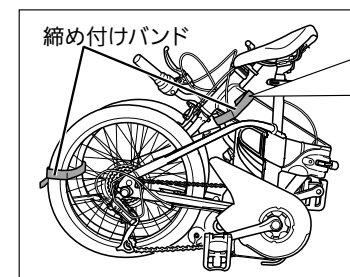
4. 車両本体（車体部）を折りたたむ

①ロックを解除しスタンドをはね上げる。

■ジョイント部分を持って折りたたまない

禁止　指や手を挟んでけがをするおそれがあります。

②右側のペダルが後方になるように、ギヤクランクを回転する。

③クイックレバーフックを前方にスライドしながら、クイックレバーを進行方向（前方）へ回転する。

④折りたたみレバー付け根の車体部を押し付けるようにしながらジョイント部の固定ナットを引き出す。

お知らせ

- ●折りたたみレバーが進行方向（前方）に向いていると、ジョイント部の固定ナットが引き出しやすくなります。
- ●接続部に少しでもすき間があると、固定ナットが引き出しにくくなります。

⑤自転車の前半分を、反時計方向に回転して折りたたむ。

⑥付属の締め付けバンド（2本）で、前後の車輪とハンドルを結束する。

お願い

- ●前後の車輪を結束してから、ハンドルを結束してください（バンドが取り付かない場合があります）。

お願い

- ●前後の車輪が平行になるように、均等に結束してください。
- ●折りたたんだ状態での持ち運びは、自転車を両手でしっかり持ち、周囲の人、物に十分注意して行ってください。

お知らせ

- ●フレームを折りたたむ際は、必ずバッテリーロックキーを抜いておいてください。フレームにキズが付いたり、バッテリーロックキーが破損したりするおそれがあります。

乗ったあと

バッテリー

■バッテリーの種類

●リチウムイオンバッテリーを使用しています。
●この自転車には、メモリー効果の心配が無く、軽量で安全性に優れたリチウムイオンバッテリーを搭載しています。

品　番
●仕様表でご確認ください。（☞ 55 ページ）

■バッテリーの容量表示

●バッテリー本体の PSE マーク部に表示されている容量表示数値（6.3 Ah）は電気用品安全法（PSE）において JIS C8711 で規定された試験での測定容量値を定格容量値として表示しています。
●バッテリーのほかの部分、取扱説明書、カタログの容量表示数値は実走を想定した社内試験条件放電での平均値（6.6 Ah）を容量値として表示しています。

■バッテリーの交換・廃棄

●お買い求めの販売店にご相談ください。

大部分の素材がリサイクル可能です。貴重な資源を守るために、使用済みの充電式リチウムイオンバッテリーは、廃棄しないで販売店にお持込いただくかリサイクル協力店にご相談ください。弊社は小形充電式バッテリーの回収・リサイクルを実施する「一般社団法人　ＪＢＲＣ」に参画し、リサイクル活動を推進しています。リサイクル協力店をお探しの場合は下記ホームページよりご検索ください。（http://www.jbrc.com）

■交換時期の目安

●バッテリーは充放電を繰り返すと徐々に能力が低下し、走行できる距離が短くなります。目安として、700 ～ 900 回の充放電で購入時の約半分になり、使いかたによっては交換が必要になります。

お知らせ

●１回の満充電で、走行できる距離が著しく短くなったときが、交換の時期です。（購入時の約 50 パーセント以下）
●冬期 (約 5 ℃以下) や寒い環境下では、1 満充電あたりの走行距離が短くなります。この現象はバッテリーの特性で、気温が高くなると走行距離は元に戻ります。
●バッテリー交換時期の目安と、製品の保証期間とは関係ありません。

■バッテリーの長期保管

●電動アシスト自転車からバッテリーを取り外し、満充電して保管してください。
●周囲気温が 0 ℃～ 40 ℃の場所で保管してください。
●バッテリーの劣化を抑えるため、最低 3 か月に 1 回は充電してください。
●バッテリーの残量表示ボタンを押した場合、LED ランプが点灯しないときは、保護回路が働いています。バッテリーを充電器にセットし、充電状態にすると解除されます。
●長期間保管後、再使用する場合、あらかじめバッテリー残量を確認し不足しているときは、必ず充電してください。

お知らせ

●バッテリーが劣化する条件（以下のような条件では劣化が早まります。）
・放置期間が長く、使用頻度が低いとき
・バッテリー残量が少ない状態で長期間放置したとき
・高温になる場所で充電を繰り返したり、保管したりしたとき

バッテリーの特別保証について

■保証期間および保証対象

1. 電動アシスト自転車用リチウムイオンバッテリーの特別保証期間

バッテリーお買い上げ日から 2 年間（業務使用は除く）
保証対象：＊電動アシスト自転車用バッテリーの材料、製造の不具合
保証条件：＊保証期間内に満充電回数 700 回以下で、初期容量の 50 パーセント以下に劣化した場合

2. 保証期間内でも次の場合には原則として有料とさせていただきます。

（イ）保証対象外となる症状
（1）満充電回数 700 回を超える使用でのバッテリー劣化（初期容量の 50 パーセント以下となったもの）
（2）バッテリーの特性による使用環境、天候、積載条件などに起因する 1 満充電あたりの走行距離低下（一時的なものを含む）
・外気温が低い冬期に、1 満充電での走行可能距離が夏期使用時より少なくなる現象
・上り坂が多い、発進頻度が高い、積載量を含む総重量が重いことによる 1 満充電での走行距離が短くなる現象など
（3）バッテリーの温度特性またはシステム保護のための一時的なアシスト力低下
・外気温が 10℃以下の冬期使用時に、一時的にアシスト力が低下する現象
・外気温が高い夏期に、長い坂道を登ったり、重い荷物を積載して走行したりした場合、システムの保護のためにアシスト力が低下する現象など
（4）バッテリーの温度特性またはシステム保護のための充電の一時的な中断・待機の現象（回生充電も含む）
・気温 0℃以下の低温、夏の直射日光が当たる場所や走行直後の高温時に充電した場合、充電の中断または待機になる現象など
※　上記（1）～（4）のバッテリー特性について、詳しくは本書の「 走行距離が短くなる環境 / 使いかた 」、「 バッテリーについて 」をご確認ください。
（ロ）誤った使用および不当な修理や改造による故障および損傷
（ハ）落下や水没などの取り扱いの誤りによる故障および損傷
（ニ）業務用（荷物運搬・新聞配達など）、営業用（レンタサイクルなど）、不特定多数で使用された場合の故障および損傷
（ホ）火災、地震、水害、落雷、その他天災地変および公害、塩害、ガス害など、異常電圧、指定外の使用電源（電圧、周波数）などによる故障および損傷
（ヘ）保証書のご提示が無い場合
（ト）保証書にお買い上げ年月日、お客様名、販売店名の記入の無い場合、あるいは字句を書き替えられた場合

お手入れ／注油について

お 手 入 れ

■日常のお手入れ

●乾いた布やブラシで、泥や土、ほこりを落としてください。
●洗車は、しないでください。
●がんこな汚れには、台所用洗剤（中性）を薄めてご使用ください。

■次のような場所では、

〈湿気の多い場所・海岸沿い・工場地域・エアコンの室外機のそば・自動車の排気ガスのかかる所・鉄道の線路際など〉
●さびやすいので、お手入れの回数を、多くしてください。

■ステンレス部品

●ステンレスはさびにくい金属ですが、使用条件や環境によってさびることがあります。下記の点にご注意の上ご使用ください。
○ステンレスに付着した鉄粉などが、さびることによって「もらいさび」が発生しますので、お手入れを頻繁に行ってください。（例：鉄道や鉄工所の近辺での保管車、後車輪周りのステンレス部品など）
○ステンレスは塩素にも弱く、さびることがあります。塩分や塩素系の洗浄剤が付着したときは、乾いたあとでもさびが発生しますので、水を含んだ布などでしっかりふき取ってください。

お願い

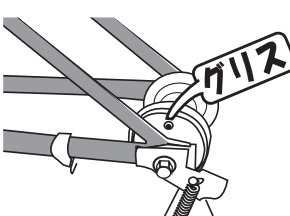
●本自転車は生活防水性能を備えていますが、駆動ユニットやバッテリー、手元スイッチには直接圧力がかかるような洗車や、水をかけながらの洗車はしないでください。駆動ユニットやバッテリー内部に水が入った場合、故障の原因となるおそれがあります。万一、駆動ユニット、バッテリーなどが水につかった場合は、直ちに使用を中止して販売店にご相談ください。
●長期間ご使用になった場合、車体側接続端子の表面に汚れや酸化物が付着し、バッテリー端子との滑が悪くなり、バッテリーの取り外しが固くなるときがあります。バッテリーの取り外しが固くなったときは、乾いた布で車体側接続端子の汚れや酸化物をふき取ってください。このとき、金属製のものは使用しないでください。ショートして感電・火災のおそれがあります。
●バッテリーケースの汚れは、水を含んだ布などでふき取ってください。
●シンナー・ベンジンなどの有機溶剤、ガソリンなどの石油類薬品、酸性・アルカリ性の洗剤などは使用しないでください。（塗装がはげたり、樹脂製部品が浸食されたりします。）
●サドルには、ワックスをかけないでください。（座ったとき衣服が汚れたり、滑ったりします。）
●雨天走行後は、リム側面のブレーキブロック接触面の砂や泥をふき取ってください。（黒く変色するのを防ぎます。）

注 油 に つ い て

⚠ 警告

■リムやブレーキブロック（ゴム部）には、油脂類を付けない

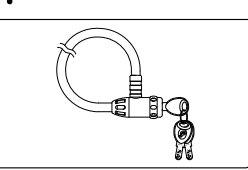
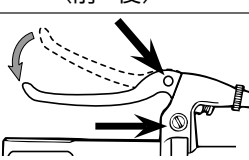
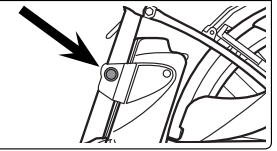
■ブレーキグリスの補給には、ローラーブレーキ専用グリスを使用する

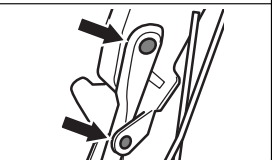
ブレーキが利かなくなり、衝突や転倒によるけがのおそれがあります。

注油場所と注油禁止場所

このマークは、注油場所を示します。

このマークは、注油禁止場所を示します。

お願い

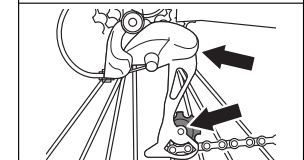
●油の種類は、必ず、自転車用油を使用してください。（食用油などは、硬化するおそれがあります。）
●余分な油は、乾いた布でふき取ってください。
●オプション部品についても、同様のメンテナンスをお願いします。

お願い

●メンテナンスをする場合は専用グリスを使用してください。
（☞ 28 ～ 29 ページ）

スタンド

可動部にグリス塗布。
スタンドロックの裏側の2本のカシメ部分。
バネ引っ掛け部の上端。

チェーン

クランクを回しながら注油。
（チェーン・ギヤのさびつき、摩耗を防ぎます。）余分な油はふき取る。（油汚れやほこりの付着を防ぎます。）

リヤディレーラー

可動部とプーリーに注油。

運搬／保管／廃棄

運　搬

⚠ 警告

■持ち運びの際にはバッテリーを外す

自動車への積載時など、持ち運びの際に不意にペダルが押された場合にセンサーが感知し、車輪が回転し、巻き込まれてけがをするおそれがあります。

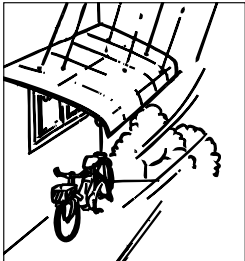
⚠ 注意

■バッテリーは両手で扱う

落下して、破損し、けがをするおそれがあります。

保　管　／　廃　棄

■保管場所

- ●安定のよい所。
- ●風通しがよく、湿気の少ない所。
- ●雨つゆや直射日光が当たりにくい所。

■タイヤの管理

- ●空気を適正空気圧まで入れてください。(☞29 ページ)

■長期間保管する場合

- ●ごみやほこりが付くのを防ぐため、「サイクルカバー（別売オプション）」の使用をお勧めします。
- ●長期間、バッテリーを取り外したままにするときは、汚れやほこりが付かないように、付属の端子カバーを装着してください。（端子カバーを装着したまま走行しないでください。落下して破損するおそれがあります。）（☞20 ページ）

■バッテリーの保管

- ●バッテリーの保管については44 ページをご覧ください。

■廃棄するとき

- ●自転車を廃棄するときは、お住まいの地域のルールに従ってください。
- ●使用済みの充電式バッテリーは、お早めに廃棄しないで販売店にお持込いただくかリサイクル協力店にご相談ください。（資源有効利用促進法に基づき、貴重な資源を守りましょう。）
- ●使用済みの電動アシスト自転車用充電器は、廃棄せずお住まいの地域の回収ルールに従ってください。

定期点検／アフターサービスについて

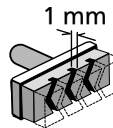
定　期　点　検

⚠ 警告

■定期点検は、必ず実施する

異常や故障の発見がおくれ事故発生によるけがのおそれがあります。

■部品の交換は、次の基準で実施する

- ●ブレーキワイヤ・変速ワイヤは、異常が無くても 2 年に 1 回は、交換する。
- ●タイヤは、接地面（トレッド）の溝がなくなるまえに交換する。
- ●ブレーキブロックは、溝の残りが、1 mm になるまえに交換する。
- ●ブレーキブロックは、リムにあった純正ブレーキブロックに交換する。

ブレーキが利かなくなり、スリップのため転倒によるけがのおそれがあります。

点検と整備は、自転車の大切な健康診断です。
いつまでも安全にお乗りいただくために、ご使用後初めての初回（2 か月以内）点検と、6 か月ごとの定期点検の実施をお願いします。（裏表紙の点検・整備チェックリストにて実施をお願いします。）

●初回（2 か月以内）の点検と整備

お買い上げ 2 か月ぐらいのご使用で、各部にねじの緩みが出ることがあります。
必ず、お買い求めの販売店または修理代行店で、自転車安全整備士、自転車技士（自転車組立整備士）、もしくは同等の技術を有する者により点検・整備をお受けください。

● 2 回目以降（6 か月ごと）の点検と整備

安全にご愛用いただくため、必ず継続してお受けください。

アフターサービス（修理を依頼されるとき）

自転車が故障したときは、お買い上げの販売店に修理をご依頼ください。

●保証期間中は、	▶	●保証対象かどうか（無償修理か有償修理か）は、お買い上げの販売店で自転車と品質保証書の内容を確認した上で、判断させていただきます。 ●インターネットなど通信販売でお買い上げの場合も、まず販売店にご相談ください。出張修理や補修部品の直接販売は弊社では行っていません。
●保証期間が過ぎたあとは、	▶	お買い上げの販売店にご相談ください。

※補修用性能部品の保有期間　**8 年**

当社は、この電動アシスト自転車の補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）を製造打ち切り後、8 年保有しています。

自転車安全基準／BAAマーク／点検整備済TSマークのご紹介

この自転車は（一社）自転車協会が定めた自転車安全基準に基づく型式検査に合格した適合車です。

自 転 車 安 全 基 準

（一社）自転車協会が消費者の安全第一と環境負荷の低減を目的として定めた基準です。
JIS（日本工業規格）をベースに、EN（ヨーロッパ規格）など海外の規格やヨーロッパの環境負荷物質に関する規制（RoHS 指令）に基づいています。

B A A マ ー ク

「BAA マーク」は、自転車安全基準に基づく型式検査に合格した適合車に、貼ることができるマークです。
「BAA マーク」は、自転車のバッテリーロックキー付近に貼り付けられています。
※ BAA= 自転車協会認証 -BICYCLE ASSOCIATION (JAPAN) APPROVED

点検整備済 TS マーク（保険付き）のご紹介

- ●工場出荷時に貼り付けしている TS マーク（☞ 17 ページ）には、保険は付帯されていません。
- ●傷害保険と賠償責任保険が付帯された保険付き TS マーク（左図）が別にあり、お客様のご希望により貼り付けることができます。
- ●保険付き TS マークは、自転車安全整備店（TS マーク取扱店）で点検整備を行い、基準に適合した自転車であることを確認した上で貼ることができます。
- ●費用や保険内容など詳細は、お買い求めの販売店もしくは自転車安全整備店（TS マーク取扱店）にご相談ください。

お願い

●点検　　年　　月　　日が記入されていない場合は、
必ず、お買い求めの販売店に記入してもらってください。記入されていない場合は、補償されないときがあります。

盗難補償

盗 難 補 償

電動アシスト自転車をお買い求めいただいたお客様で、ご購入日より 3 年以内に盗難にあわれた場合、盗難補償制度が適用されます。盗難補償制度とは、盗難車本体（充電器を除く）希望小売価格（税抜）の 30 パーセントとその組み立て手数料 4,000 円（税抜）で、盗難車と同タイプの新車をお買い求めいただくことができる制度です。制度の詳細は下記のとおりです。※本体希望小売価格と手数料には消費税は含まれておりません

ご購入時、CLUB Panasonicにてご愛用者登録をいただくか、ご愛用者登録はがきに必要事項をご記入の上、パナソニック サイクルテック愛用者登録係にご返送いただいたお客様に限り、次の内容により盗難補償が受けられます。

（1）盗難補償の期間と範囲
お買い求めの日から 3 年間の自転車（別売部品などを含む装着部品の盗難は除く）かつ、盗難日より 90 日以内に申し込みいただいた場合に限ります。

（2）盗難補償の内容
■お客様のご負担　①充電器を除く本体希望小売価格（税抜）の 30 パーセント
②組み立て手数料　4,000 円（税抜）　2013 年 12 月現在
※本体希望小売価格と手数料には消費税は含まれておりません

（3）盗難補償の申し込み要領
■提出書類など　①盗難にあった地区の警察署から交付を受けた証明になるもの
（警察受理ナンバーまたは盗難届出証明書など）
②盗難車の保証書
③盗難車のキー（3 本）
④盗難補償申込書（販売店が用意いたします。）
■申し込み先　お買い求めの販売店へ現金を添えて、お申し込みください。
追って、販売店から新車を、お渡しいたします。

（4）盗難車の所有権
盗難車が発見された場合は、その所有権は当社に帰属することを同意の上お申し込みください。

（5）盗難補償ができない場合
①施錠せず盗難にあった場合　②（3）の書類およびキーがそろわない場合
③防犯登録がされてない場合　④補償期間が過ぎている場合
⑤景品などの贈呈品の場合　⑥盗難補償車が再度、盗難にあった場合
⑦愛用者登録をされていない場合　⑧盗難車が見つかり、返ってきた場合

ご注意

●生産などの都合で、同タイプの自転車をお届けできない場合がありますことをご了承願います。

故障かな？！

まず、次の表に従ってお調べいただき、直らないときは、お求めの販売店に修理をご依頼ください。

症状		対処方法	ページ
ペダルが重い・アシストしない	手元スイッチのアシストランプ、残量表示ランプが点灯しない	●バッテリーが確実に取り付けられていますか？ ⇨バッテリーを確実に取り付けてください。	18～20
		●バッテリーの残量表示ボタンを押したときに、2・4番目のLEDランプが点滅すれば、保護機能が働いています。 ⇨バッテリーを充電してください。	—
	バッテリーの残量表示ランプが点灯しない	●バッテリーの残量表示ボタンを押した場合、LEDランプがすべて点灯しないとき、保護機能が働いています。 ⇨バッテリーを充電してください。 ※充電しても表示が戻らない場合は販売店にご相談ください。	—
	手元スイッチの残量表示ランプが早い点滅をしたり、点灯しない	●充電ができていますか？ ⇨バッテリーを充電してください。	18～20
	手元スイッチの残量表示ランプとアシストランプが交互に1回ずつ点滅する	●ペダルを踏みながら、電源ボタンを押しませんでしたか？ ⇨ペダルを踏まないで、電源ボタンを押し、電源を入れてください。	36
	手元スイッチの残量表示ランプが2回、アシストランプが1回の割合で点滅する	●駆動ユニットの異常です。 ⇨販売店に修理をご依頼ください。	—
	手元スイッチの残量表示ランプは残量を表示するが、アシストランプが点滅する	●駆動ユニットが過負荷のため、保護モードに入っています。 ⇨変速を「1～2」にするなどを行い、軽負荷で走行してください。しばらくすると正常に戻ります。 ※（炎天下 での乗車など）保護モードに入るとアシスト力が制限されます。そのまま走行していただいても問題ありません。表示が戻らない場合は販売店にご相談ください。	—
	補助（アシスト）が切れたり入ったりする	●配線が緩んでいたり、端子が汚れていたりしませんか？ ⇨販売店にご相談ください。	—
	補助（アシスト）が弱い	●ペダルを踏みながら、電源ボタンを押しませんでしたか？ ⇨電源ボタンを押して、電源を入れ直してください。	36
	補助（アシスト）しない	●停止して10分以上経っていませんか？（オートオフシステム） ⇨電源ボタンを押して、電源を入れ直してください。	36
バッテリーや充電器が熱くなる（発火の心配）		●充電中、充電器は多少熱くなります。 ⇨異常ではありません。	—
		●手で触れられないほど熱い場合は、異常です。 ⇨直ちに使用を中止し、販売店に修理をご依頼ください。	—
充電が完了したのに残量表示ランプが5個全部点灯しない		●充電途中で電源プラグを抜きませんでしたか？ ⇨再度充電してください。	18～20
		●充電器の端子が汚れていませんか？ ⇨乾いた布などで清掃してください。	—
		●長期間使用されたバッテリーですか？ ⇨バッテリーの寿命です。販売店にご相談ください。	—

症状		対処方法	ページ
充電できない	バッテリーの残量表示ランプが点灯しない	●バッテリーが充電器に正しく挿入されていますか？ 充電器のバッテリー挿入部が汚れていませんか？ ⇨汚れを取り除き、バッテリーを正しく挿入してください。	18～20
		●満充電ではありませんか？ ⇨バッテリーの残量表示ボタンを押して、チェックしてください。満充電からの再充電はできません。 一度使用してから、充電してください。	—
		●残量表示ボタンを押した場合、LEDランプが流れるように点滅するときはバッテリーの故障が考えられます。 ⇨販売店にご相談ください。	—
	充電中、バッテリーの残量表示ランプの1，3，5番目のLEDが点滅する	●バッテリー内の温度が0℃～40℃の範囲外になっています。 ⇨温度が0℃～30℃の場所に移し、約2時間待ってください。	—
走行距離が短い	手元スイッチの残量表示ランプが短い走行で点滅を始める	●充電ができていますか？ ●長期間使用せずに、放置されていませんでしたか？ ⇨バッテリーを充電してください。	18～20
		●初めて使用するバッテリーではないですか？ ⇨バッテリーを充電してください。	18～20
		●道路条件や変速位置、33ページに記載しているような走行により、走行距離が、短くなります。	32～33
		●冬期は、バッテリーの特性で性能の低下が大きくなります。	33
		●タイヤの空気圧が低下していませんか？ ⇨自転車用ポンプを使って空気を入れてください。	29
		●ブレーキの調整は正しくできていますか？ ⇨ブレーキの調整を販売店に依頼してください。	28～29
		●繰り返しの充電や長時間の使用でバッテリーは劣化（性能低下）します。 ⇨ 1回の充電で走行できる距離が著しく短くなった場合（新品時の約50パーセント以下）は、新しいバッテリーに交換してください。	44
ペダルに振動を感じる		●ペダルに足を乗せた状態での停車時に振動を感じる場合がありますが、モーター固有の特性です。故障ではありません。	—
手元スイッチの残量表示部は残量を表示するが、アシストランプがフラッシュ点滅（3回素早く点滅）する		●ハブ内蔵スピードセンサーが正しく信号を検出できていません。 ⇨電源を入れ直してください。直らない場合は販売店にご相談ください。 ※スタンドを立てた状態（両立スタンド装着車の場合）でペダルをこぐと、左記の表示をする場合があります。電源を入れ直すか、実際に走行すると元に戻ります。	—

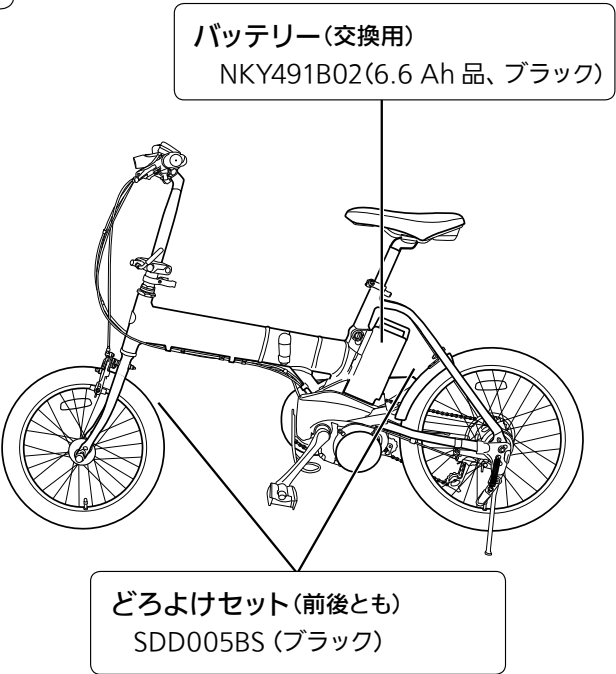
必要なとき

取り付けのポイント

●安全にご乗車いただくため、必ず当社の純正部品をご使用ください。
（当社の純正部品以外をご使用になり、不具合が生じた場合は、保証の対象外になります。）
●オプション部品の品番は都合により変更することがありますので、取り付けの際に、販売店にご確認ください。
（掲載している品番は 2014 年 2 月 現在のものです。）
●価格など詳細については、販売店にご相談ください。

輪行バッグ
NAR059

バッテリー（交換用）
NKY491B02（6.6 Ah 品、ブラック）

どろよけセット（前後とも）
SDD005BS（ブラック）

サイクルカバー
SAR134
前後裾絞り

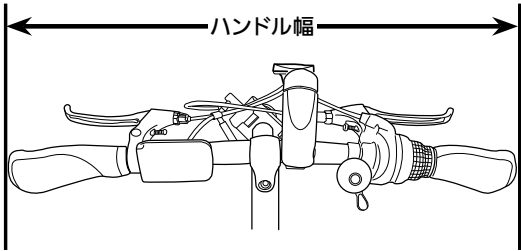
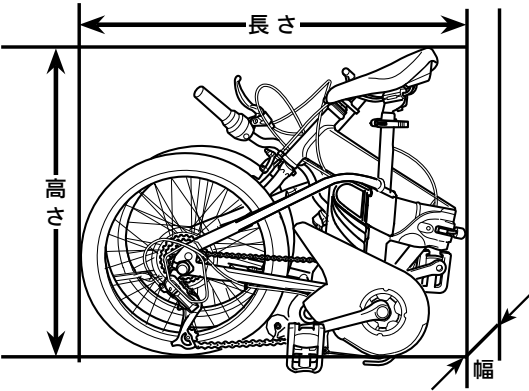
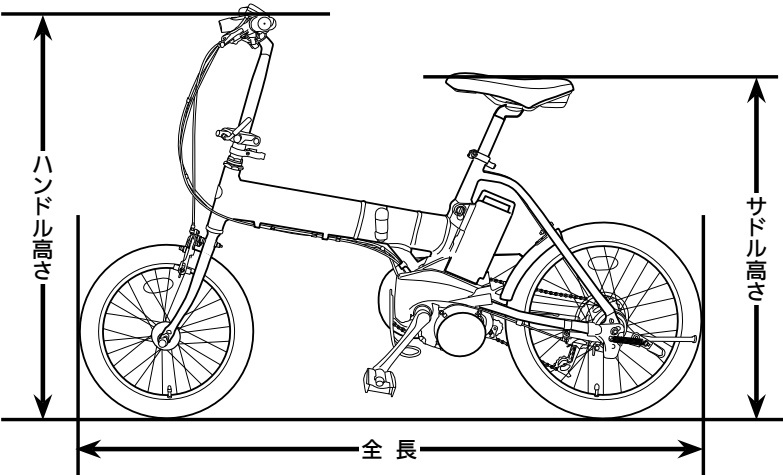
品　名		オフタイム
品　番		BE-ENW076
寸法	全　長	1,520 mm
	全　幅	570 mm
	ハンドル高さ	960 mm
	サドル高さ	760 mm ～ 915 mm
	折りたたみ時	高さ : 660 mm
		長さ : 880 mm
		幅 : 490 mm
総車両質量（バッテリーを含む）		20.0 kg
フレーム		H 形
ハンドルバー		フラットバー
ペダル		折りたたみペダル
スタンド		1 本スタンド
タイヤ（前後）		前 18 × 1.75 HE ／後 20 × 1.75 HE
リフレクター		シートステー、バッテリーライト部、前後車輪、ペダルに取り付け
補助速度範囲変速⑦の位置		24 km/h 未満
充電 1 回の走行距離（標準パターン）		29 km※（パワーモード使用時）
モーター形式　定格出力		直流ブラシレスモーター　250W
補助力制御方式		踏力比例制御
バッテリー	品　番	NKY491B02
	種　類	リチウムイオンバッテリー
	容　量	25.2 V ー 6.6 Ah（21 cells）
	質量（パック）	約 1.7 kg
充電器	品　番	NKJ033B
	形　式	スタンド型
	電　源	交流 100 V（50 Hz ／ 60 Hz）
	充電時間	約 4 時間
	質　量	約 0.7 kg
	消費電力	約 80 W
	待機消費電力	約 0.5 W
	充電できるバッテリー	NKY491B02　25.2 V ー 6.6 Ah（21 cells）
	機方式	外装 7 段シフト
駆動方式		クランク軸上合力発生一体型
制動装置	前　輪	サイドプル形キャリパーブレーキ
	後　輪	ローラーブレーキ
照明装置		バッテリー式前照灯
施錠方式		ワイヤ錠
乗車適応身長		143 cm ～ 177 cm

●乗車適応身長は、両足のつま先が地面に着地できる身長を指します。 （☞ p.10 ■乗るまえに）
●乗車適応身長は、個人差がありますので、目安としてください。
●寸法や質量などの値は、部品のばらつきや仕様変更により、誤差が生じる場合があります。
●仕様変更などにより写真、イラストや内容が一部実車と異なる場合があります。
●バッテリーは充放電を繰り返すと徐々に能力が低下し、走行できる距離が短くなります。目安として、700 ～ 900 回の充放電で購入時の約半分になり、使いかたによっては交換が必要になります。
●この車種は、乗員体重を 65 kg で基本設計しています。従って、著しくオーバーした体重の方が常用された場合は、各部の消耗度合、劣化度合が大きくなります。走行距離も、『標準パターン』に対して短くなります。
※走行条件 : 環境温度は 20 ± 5℃、無風の状態、バッテリーは新品、バッテリーライトは消灯状態、車載重量 (乗員と荷物の合計) は 65 kg、路面は乾燥した平滑な路面、タイヤ空気圧は標準空気圧。

仕　様（2）

■寸法について

～メモ～

使いかた・お手入れ・修理などは
■まず、お買い上げの販売店へご相談ください。

▼お買い上げの際に記入されると便利です。

販売店名	
お買い上げ日	年　月　日
電話	（　）　ー
品番	
車体番号	
キー番号	
防犯登録番号	

■転居や贈答品などでお困りの場合は、次の窓口にご相談ください。

●使いかた・お手入れ・修理などに関するご相談は……………………………

※ご使用の回線（ひかり電話など）によっては、回線の混雑時に数分で切れる場合があります。

パナソニック 総合お客様サポートサイト
http://www.panasonic.com/jp/support/

商品に関する、**お客様ご相談窓口**　365日 受付9時～20時

電話 フリーダイヤル **0120-781-603**
※携帯電話・PHSからもご利用になれます。

■上記番号がご利用いただけない場合
(072)977-1603(有料ダイヤル)におかけください。

■取扱店や展示店のご紹介など、販売店に関するご相談は、お住まい近くの支店相談窓口が承ります。下記地域外のお客様は、フリーダイヤルへおかけください。

●各地域の支店相談窓口（営業時間／9:00～17:00）土・日・祝日・弊社指定の休日を除く

※電話番号をよくお確かめの上、おかけください。
※所在地、電話番号は変更になることがありますので、あらかじめご了承ください。

東北地区（青森・岩手・福島・宮城）
東日本支店　（022）382-7791

埼玉・群馬・栃木・茨城・新潟地区
東日本支店　（048）723-5131

東京・千葉・神奈川・山梨地区
首都圏支店　（042）490-5545

中部・東海地区（愛知・静岡・岐阜）
中部支店　（0587）54-4111

近畿地区（大阪・兵庫・奈良）
近畿支店　（072）975-4100

中国地区（広島・岡山・山口）
中国支店　（082）870-7776

九州地区
九州支店　（092）671-8648

愛情点検　定期点検をし、安全走行をしましょう！

こんな症状はありませんか	●異常な音がする ●がたつきや緩み ●車輪の振れ ●ブレーキの利きが悪い	▶	ご使用中止	事故防止のため、必ず販売店に点検、整備を依頼してください。

【ご相談窓口におけるお客様の個人情報のお取り扱いについて】
パナソニック サイクルテック株式会社およびグループ関係会社は、お客様の個人情報をご相談対応や修理対応などに利用させていただき、ご相談内容は録音させていただきます。また、折り返し電話をさせていただくときのために発信番号を通知いただいております。なお、個人情報を適切に管理し、修理業務などを委託する場合や正当な理由がある場合を除き、第三者に開示･提供いたしません。個人情報に関するお問い合わせは、ご相談いただきました窓口にご連絡ください。